

平成 24 年度厚生労働科学研究

**集団予防接種等による B 型肝炎感染拡大の検証
及び再発防止に関する研究**

都道府県、市町村アンケート調査報告書

目次

1. 調査の概要	1
1.1 調査方法	1
1.2 回収状況	1
2. 都道府県調査	2
2.1 集団予防接種等の手技に関する指導内容	2
(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計）	2
(2) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	4
(3) 注射針について（大きい番号の選択肢を優先した集計）	6
(4) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	8
(5) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）	10
(6) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	12
(7) 注射筒について（大きい番号の選択肢を優先した集計）	14
(8) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	16
(9) 集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法について	18
2.2 集団予防接種等の手技に関する指導方法	19
2.3 集団予防接種等の手技に関する実態把握	20
2.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告等	21
2.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例	22
(1) 昭和63年3月以前の把握	22
(2) 昭和63年4月以降の把握	22
2.6 結果のまとめ	23
3. 市町村調査	24
3.1 実施形態	24
3.2 集団予防接種等の手技	25
(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計）	25
(2) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	27
(3) 注射針について（大きい番号の選択肢を優先した集計）	29
(4) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	31
(5) 地域別の分析	33
(6) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）	35
(7) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	37
(8) 注射筒について（大きい番号の選択肢を優先した集計）	39
(9) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）	41
(10) 地域別の分析	43
(11) 集団予防接種等の手技の確認方法	45
3.3 集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無	47
3.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告	48

3.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例	49
(1) 昭和63年3月以前の把握	49
(2) 昭和63年3月以降の把握	49
3.6 結果のまとめ	50

1. 調査の概要

1.1 調査方法

全国の都道府県（沖縄県除く）及び市町村を対象として、質問紙調査を行った。調査票の配布回収は郵送とした。

調査期間は平成 24 年 11 月 23 日～12 月 14 日とし、ハガキによる督促を行った。

1.2 回収状況

都道府県調査の回収数は 46 件（回収率 100.0%）であった。また、市町村調査の回収数は 1,149 件（回収率 67.5%）であった。

	発送数	回収数	回収率
都道府県	46 件	46 件	100.0%
市町村	1,701 件	1,149 件	67.5%

2. 都道府県調査

2.1 集団予防接種等の手技に関する指導内容

(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計¹⁾）

集団予防接種等の手技（1.ディスポーザブル、2.加熱消毒、3.アルコール綿）について調査票では疾患ごとに状況が異なることも想定して複数回答とした。分析に際してはディスポーザブル＞加熱消毒＞アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「小さい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）と、ディスポーザブル＜加熱消毒＜アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「大きい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）を行った。

本項ではまず「小さい番号の選択肢を優先した集計」について述べる。

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技（注射針）に関する指導内容については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 44 件（95.7%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 1 件（2.2%）、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」が 1 件（2.2%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 41 件（89.1%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 2 件（4.3%）であった。「その他」は 3 件（6.5%）の回答があり、3 件とも「国の通知の通り指導」であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 38 件（82.6%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 6 件（13.0%）であった。また、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が 1 件（2.2%）「その他」が 1 件（2.2%）であった。

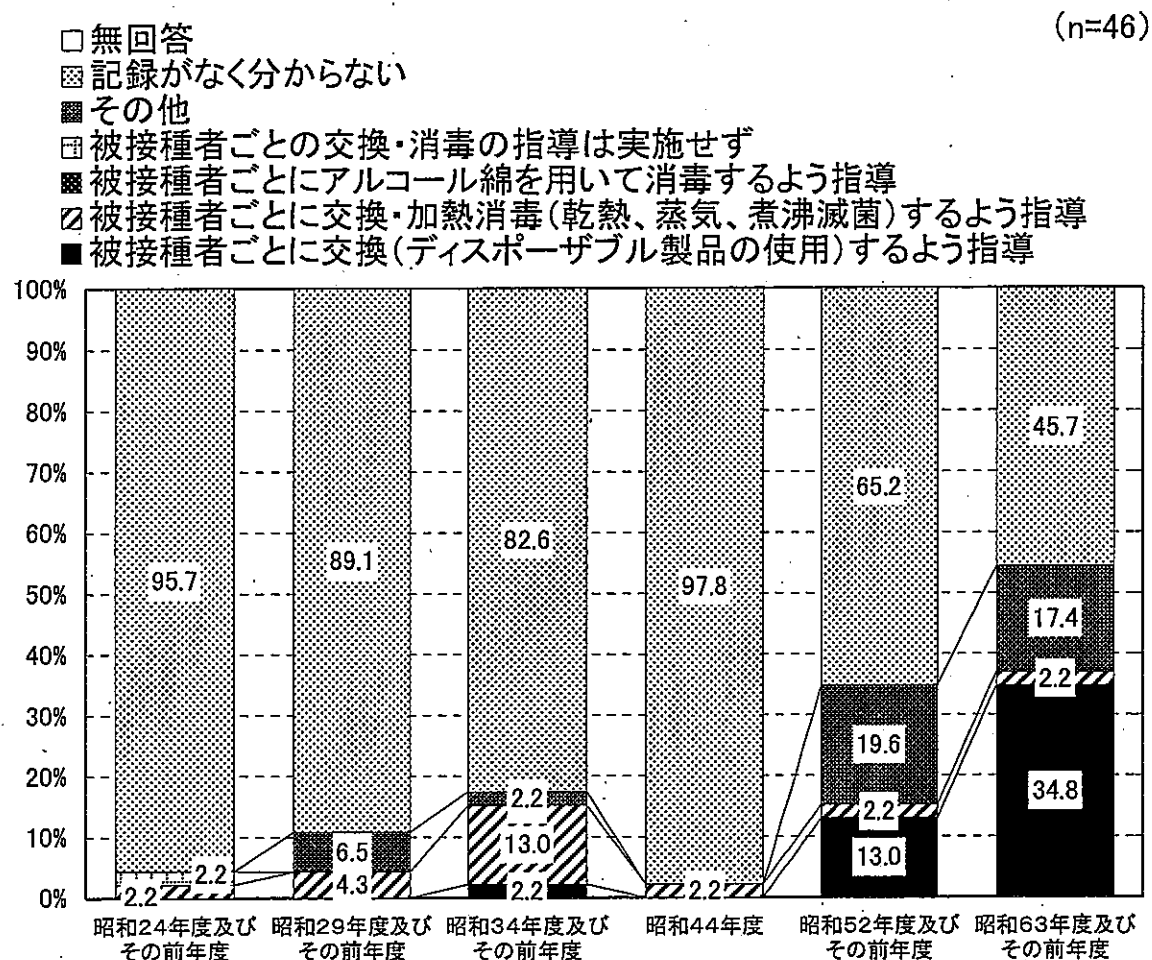
昭和 44 年度は、45 件（97.8%）が「記録がなくわからない」と回答しており、残りの 1 件（2.2%）は「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 30 件（65.2%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が 6 件（13.0%）であった。「その他」は 9 件（19.6%）で、「国の通知の通り指導」、「被接種者ごとの交換（ディスポ・煮沸・アルコール綿に言及することなし）」、「滅菌は出来るだけ煮沸以外の方法によること」といった回答があった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 21 件（45.7%）が回答し、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」と 16 件（34.8%）が回答している。「その他」は 8 件（17.4%）あり、「国の通知の通り指導」、「被接種者ごとの交換（ディスポ・煮沸・アルコール綿に言及することなし）」といった回答があった。

¹ 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が小さい方の回答を集計している。以下同様。

図 2-1 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]
※小さい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	46	16	1	0	0	8	21	0
昭和52年度及びその前年度	46	34.8	2.2	0.0	0.0	17.4	45.7	0.0
昭和44年度	46	6	1	0	0	9	30	0
昭和34年度及びその前年度	46	13.0	2.2	0.0	0.0	19.6	65.2	0.0
昭和29年度及びその前年度	46	0	1	0	0	0	45	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	97.8	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	1	6	0	0	1	38	0
昭和24年度及びその前年度	46	2.2	13.0	0.0	0.0	2.2	82.6	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	2	0	0	3	41	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	4.3	0.0	0.0	6.5	89.1	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	1	0	1	0	44	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	95.7	0.0

(2) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射針）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除いた集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和 52 年以降で見ると、昭和 52 年度及びその前年度は、「その他」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が最も多かった。

図 2-2 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]
 ※無回答及び「記録がなくわからない」を除く
 ※小さい番号優先

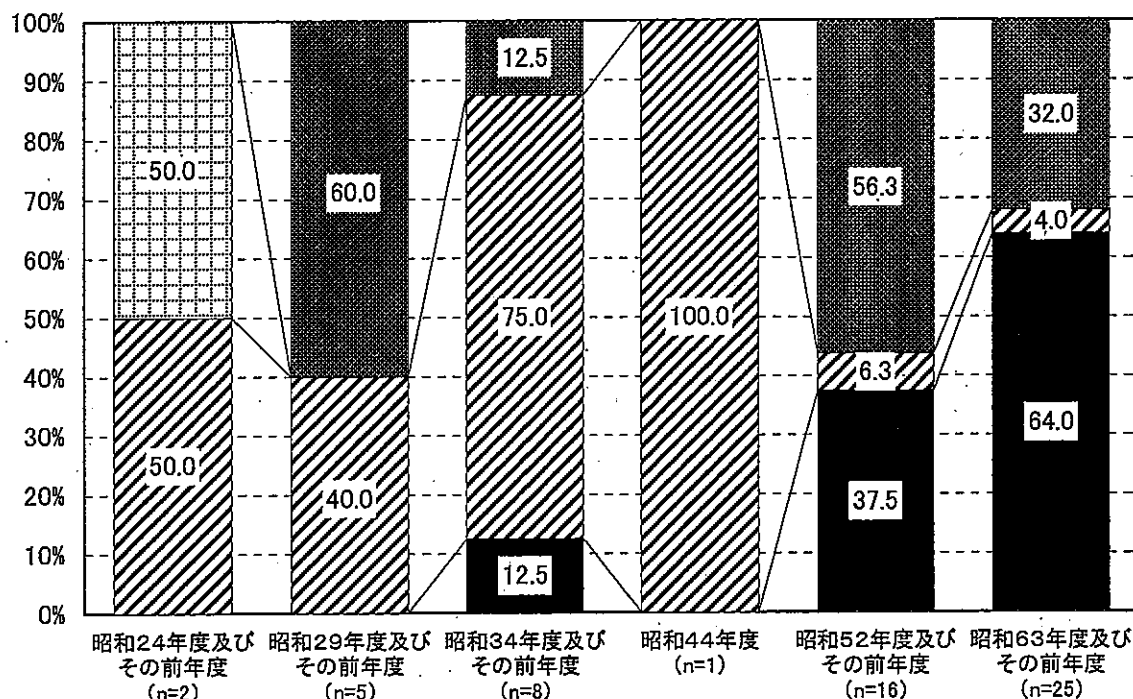
■ その他

□ 被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず

■ 被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導

▨ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導

■ 被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとに消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	25	16 64.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	8 32.0
昭和52年度及びその前年度	16	6 37.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	9 56.3
昭和44年度	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
昭和34年度及びその前年度	8	1 12.5	6 75.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5
昭和29年度及びその前年度	5	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0
昭和24年度及びその前年度	2	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0

(3) 注射針について（大きい番号の選択肢を優先した集計²）

本項では、ディスポーザブル＜加熱消毒＜アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「大きい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）について述べる。

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技（注射針）に関する指導内容については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 44 件（95.7%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 1 件（2.2%）、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」が 1 件（2.2%）あった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 41 件（89.1%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 2 件（4.3%）あった。「その他」は 3 件（6.5%）であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 38 件（82.6%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 7 件（15.2%）あり、「その他」は 1 件（2.2%）あった。

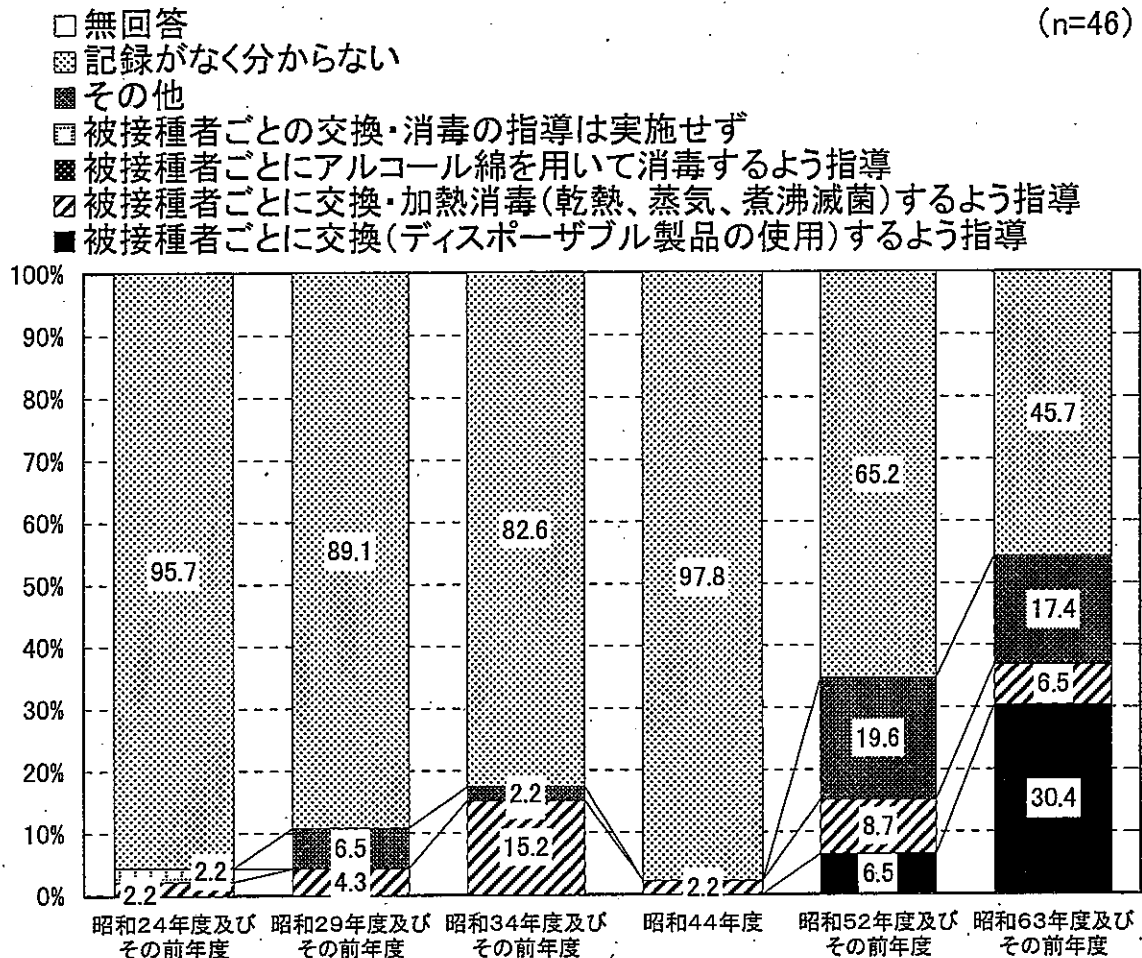
昭和 44 年度は、45 件（97.8%）が「記録がなくわからない」であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 30 件（65.2%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 4 件（8.7%）であった。「その他」は 9 件（19.6%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 21 件（45.7%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が 14 件（30.4%）あり、「その他」は 8 件（17.4%）あった。

² 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が大きい方の回答を集計している。以下同様。

図 2-3 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]
※大きい番号優先



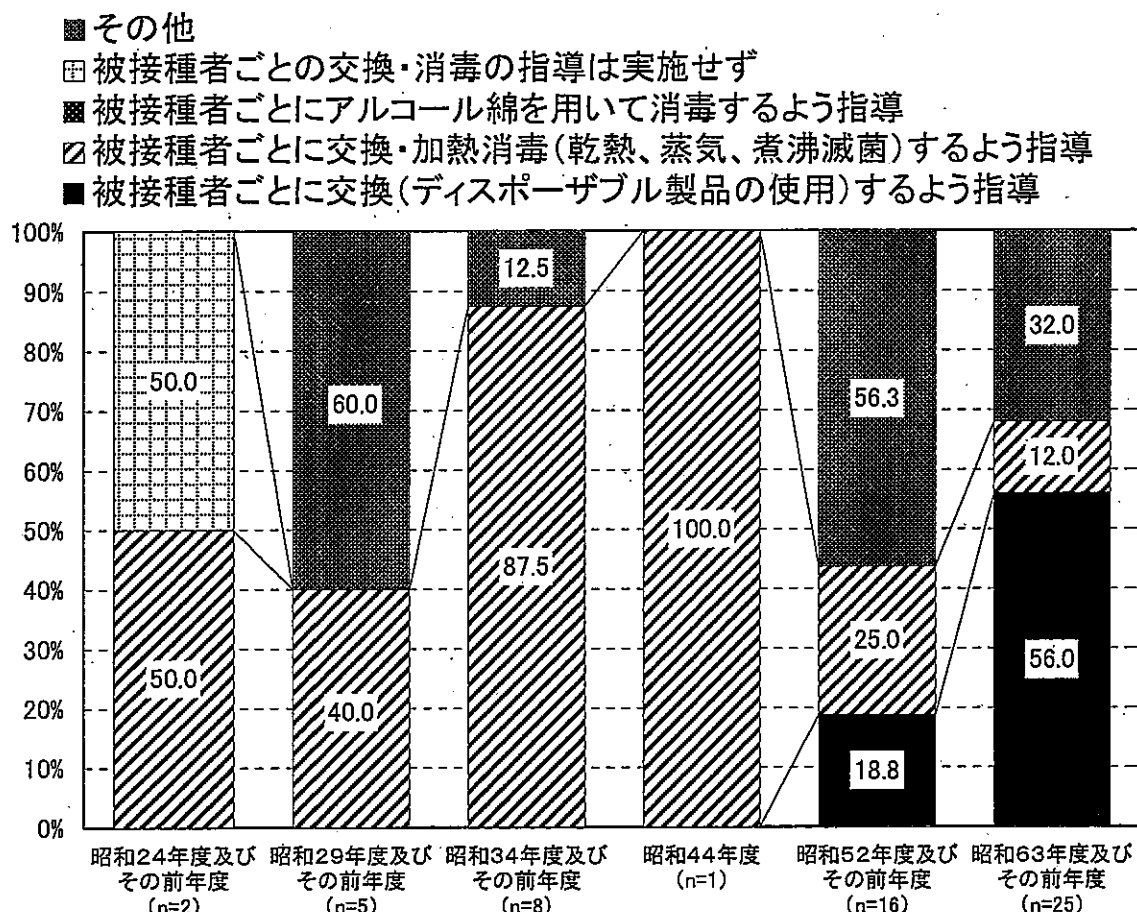
	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	46	14	3	0	0	8	21	0
昭和52年度及びその前年度	46	30.4	6.5	0.0	0.0	17.4	45.7	0.0
昭和44年度	46	3	4	0	0	9	30	0
昭和34年度及びその前年度	46	6.5	8.7	0.0	0.0	19.6	65.2	0.0
昭和29年度及びその前年度	46	0	1	0	0	0	45	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	97.8	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	7	0	0	1	38	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	15.2	0.0	0.0	2.2	82.6	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	2	0	0	3	41	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	4.3	0.0	0.0	6.5	89.1	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	1	0	1	0	44	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	95.7	0.0

(4) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射針）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除いた集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和 52 年以降で見ると、昭和 52 年度及びその前年度は、「その他」が最も多い。次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」であり、昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が最も多かった。

図 2-4 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]
 ※無回答及び「記録がなくなからない」を除く
 ※大きい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	25	14	3	0	0	8
昭和52年度及びその前年度	16	56.0	12.0	0.0	0.0	32.0
昭和44年度	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0
昭和34年度及びその前年度	8	0	87.5	0.0	0.0	12.5
昭和29年度及びその前年度	5	0	40.0	0.0	0.0	60.0
昭和24年度及びその前年度	2	0	50.0	0.0	50.0	0.0

(5) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 44 件（95.7%）が回答し、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」が 2 件（4.3%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 42 件（91.3%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 1 件（2.2%）、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」が 1 件（2.2%）であった。「その他」は 2 件（4.3%）あり、「国の通知通りの指導」との回答であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 38 件（82.6%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 4 件（8.7%）であった。「その他」は 2 件（4.3%）あり、「用具の消毒の指導はしている」という回答であった。

昭和 44 年度は、45 件が（97.8%）「記録がなくわからない」と回答し、残りの 1 件（2.2%）は「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」との回答であった。

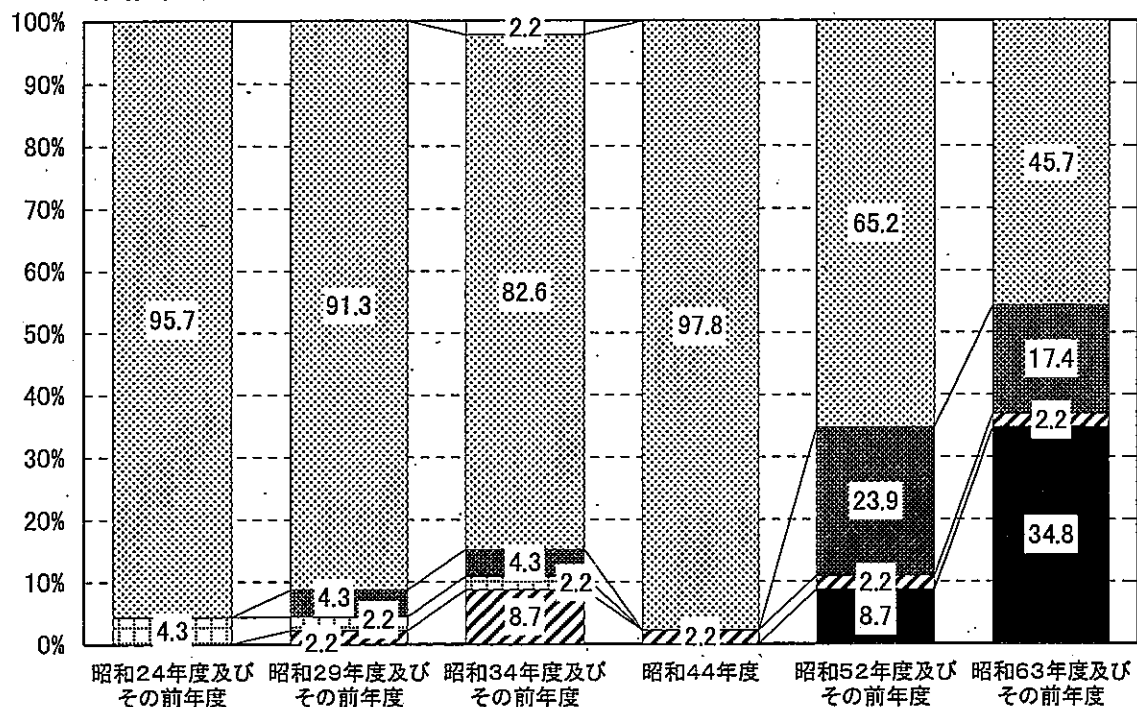
昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 30 件（65.2%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が 4 件（8.7%）であった。「その他」は 11 件（23.9%）あり、「国の通知通り指導」「被接種者ごとに交換するよう指導（ディスポ・煮沸・アルコール綿に言及することなし）」「滅菌は、出来るだけ煮沸以外の方法による」「接種用具の消毒の指導はしている」といった内容であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 21 件（45.7%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が 16 件（34.8%）であった。

「その他」は 8 件（17.4%）あり、「国の通知とおり指導」「被接種者ごとに交換するよう指導（ディスポ・煮沸・アルコール綿に言及することなし）」という回答であった。

図 2-5 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容〔注射筒〕
※小さい番号優先

- 無回答 (n=46)
 ■ 記録がなく分からない
 ■ その他
 ■ 被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず
 ■ 被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導
 ■ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導
 ■ 被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	46	16	1	0	0	8	21	0
昭和52年度及びその前年度	46	34.8	2.2	0.0	0.0	17.4	45.7	0.0
昭和44年度	46	4	1	0	0	11	30	0
昭和34年度及びその前年度	46	8.7	2.2	0.0	0.0	23.9	65.2	0.0
昭和29年度及びその前年度	46	0	1	0	0	0	45	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	97.8	0.0
昭和44年度	46	0	4	0	1	2	38	1
昭和29年度及びその前年度	46	0.0	8.7	0.0	2.2	4.3	82.6	2.2
昭和24年度及びその前年度	46	0	1	0	1	2	42	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	2.2	0.0	2.2	4.3	91.3	0.0
昭和24年度及びその前年度	46	0	0	0	2	0	44	0
昭和24年度及びその前年度	46	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	95.7	0.0

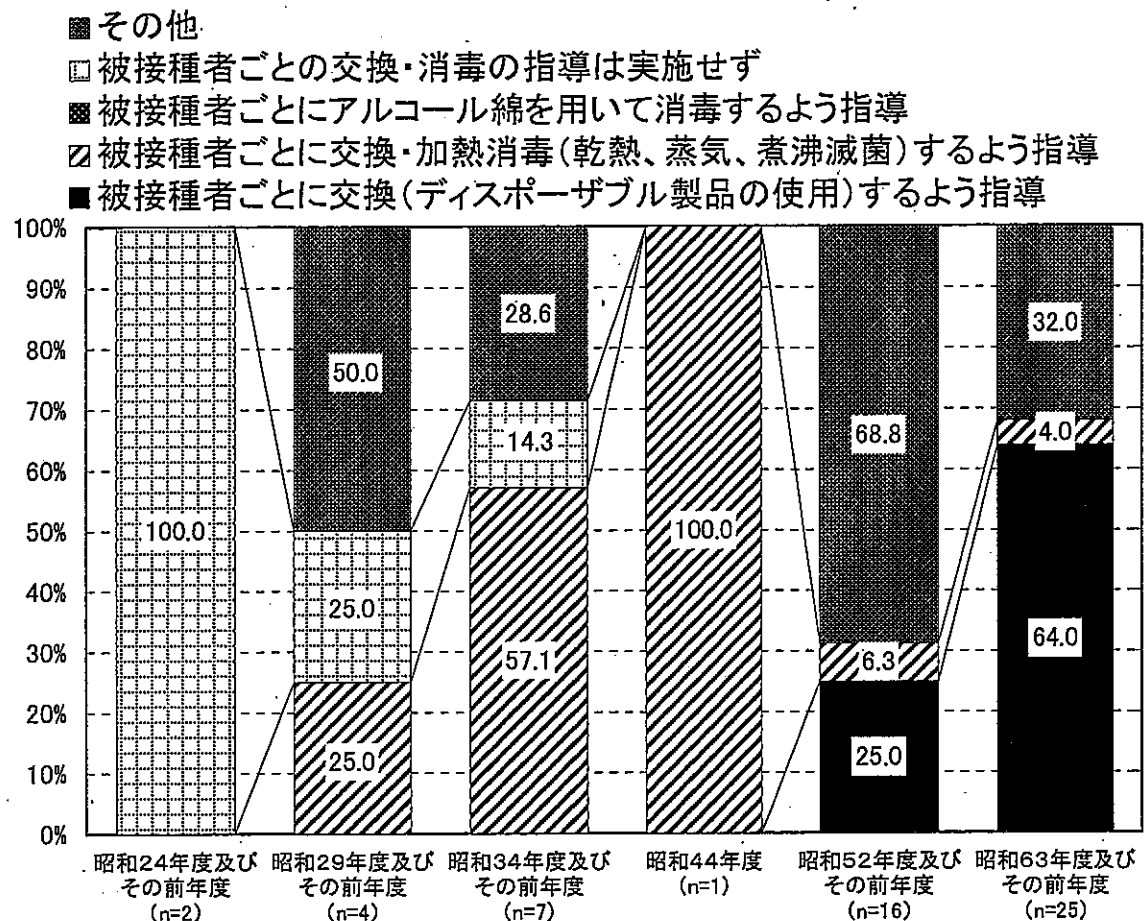
(6) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除いた集計を行った。

一定のサンプル数が確保された昭和 52 年以降について見ると、昭和 52 年度及びその前年度はその他が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が最も多く、次いで「その他」であった。

図 2-6 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容[注射筒]
 ※無回答及び「記録がなくわからない」を除く
 ※小さい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換・消毒の指導は実施せず	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	その他
昭和63年度及びその前年度	25	16	1	0	0	8
昭和52年度及びその前年度	16	4	1	0	0	11
昭和44年度	1	0	1	0	0	0
昭和34年度及びその前年度	7	0	4	0	1	2
昭和29年度及びその前年度	4	0	1	0	1	2
昭和24年度及びその前年度	2	0	0	0	2	0
		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(7) 注射筒について（大きい番号の選択肢を優先した集計）

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）については、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 44 件（95.7%）が回答し、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」は 2 件（4.3%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 42 件（91.3%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」が 1 件（2.2%）、「被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず」が 1 件（2.2%）であった。「その他」は 2 件（4.3%）であった。

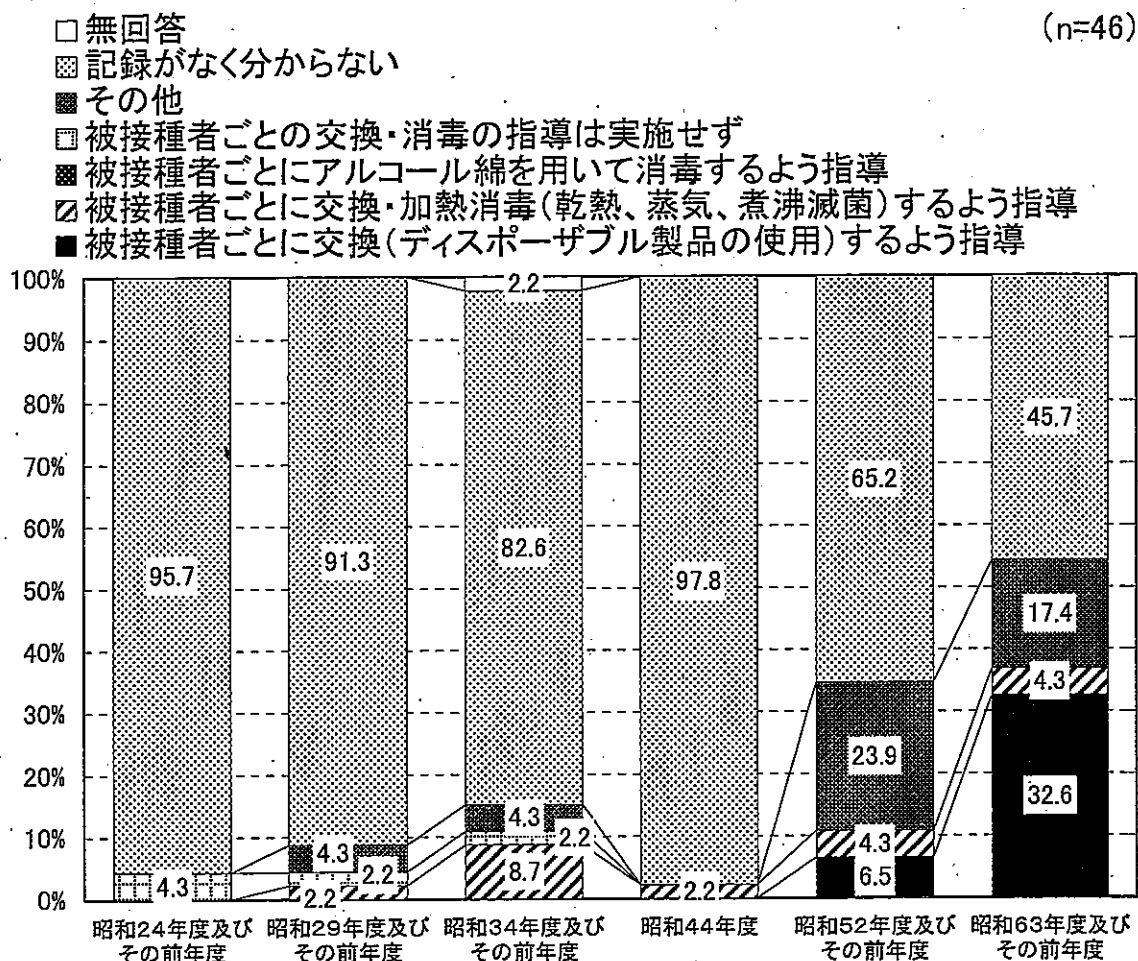
昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 38 件（82.6%）が回答し、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」は 4 件（8.7%）あった。「その他」は 2 件（4.3%）であった。

昭和 44 年度は、45 件（97.8%）が「記録がなくわからない」と回答し、残りの 1 件（2.2%）は「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）するよう指導」であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 30 件（65.2%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」は 3 件（6.5%）であった。「その他」は 11 件（23.9%）あった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」と 21 件（45.7%）が回答し、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するよう指導」が 15 件（32.6%）あった。「その他」は 8 件（17.4%）であった。

図 2-7 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射筒]
※大きい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	46	15	2	0	0	8	21	0
昭和52年度及びその前年度	46	3	2	0	0	11	30	0
昭和44年度	46	0	1	0	0	0	45	0
昭和34年度及びその前年度	46	0	4	0	1	2	38	1
昭和29年度及びその前年度	46	0	1	0	1	2	42	0
昭和24年度及びその前年度	46	0	0	0	2	0	44	0
		0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	95.7	0.0

(8) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

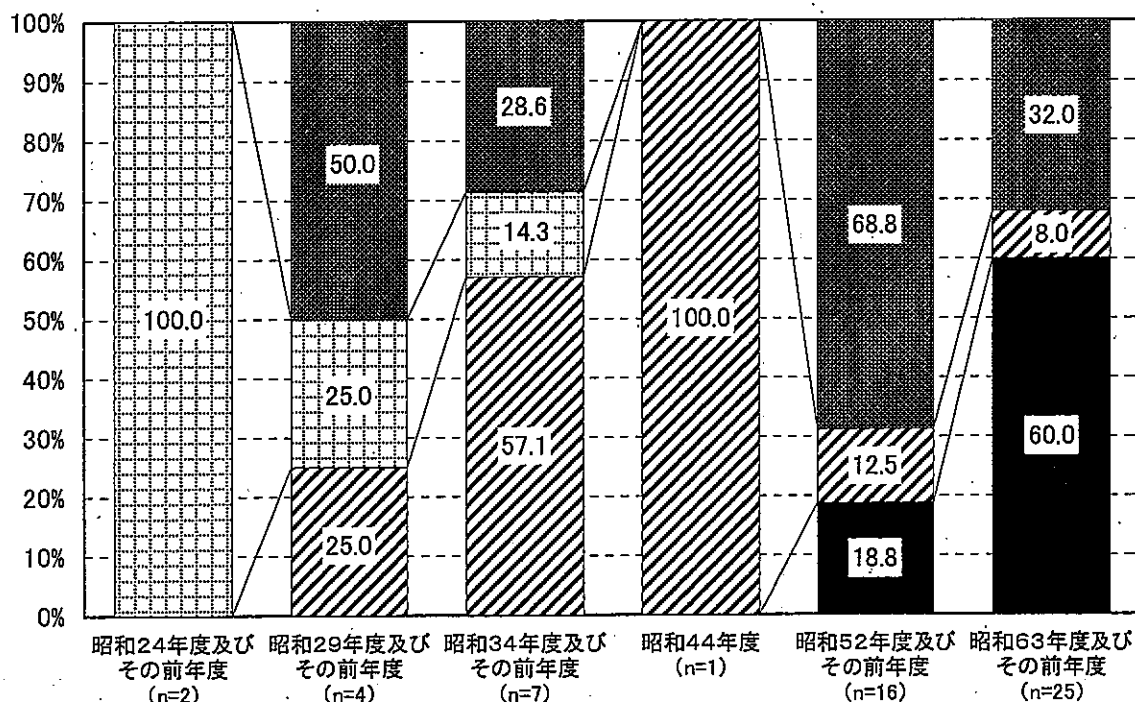
昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除いた集計を行った。

一定のサンプル数が確保された昭和 52 年以降について見ると、昭和 52 年度及びその前年度は「その他」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するように指導」であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）するように指導」が最も多く、次いで「その他」であった。

図 2-8 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射筒]
 ※無回答及び「記録がなくわからない」を除く
 ※大きい番号優先

- その他
- ▨ 被接種者ごとの交換・消毒の指導は実施せず
- 被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導
- ▨ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導
- 被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導

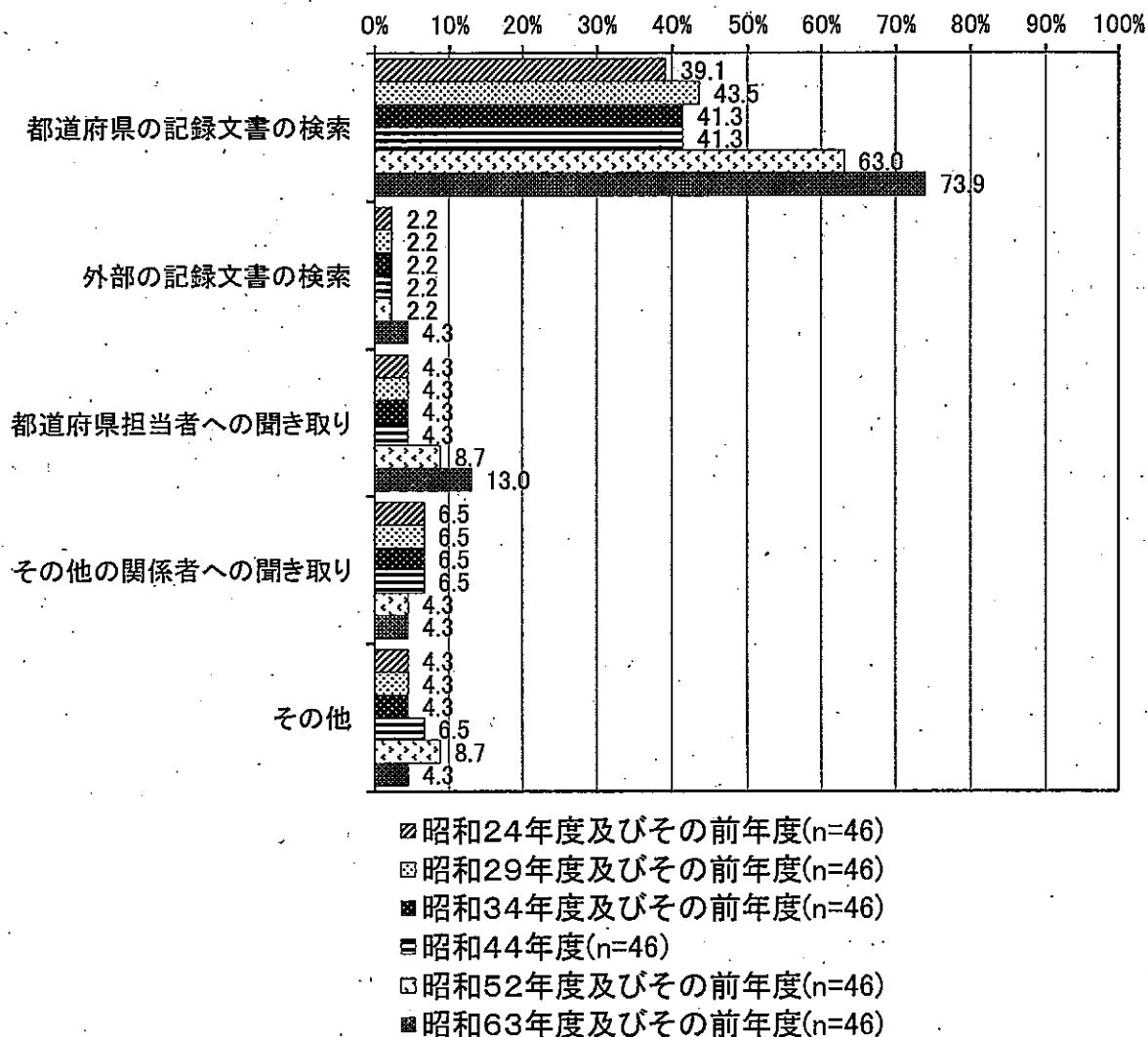


	サンプル数	被接種者ごとに交換・消毒の指導は実施せず	被接種者ごとにアルコール綿を用いて消毒するよう指導	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)するよう指導	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)するよう指導	その他
昭和63年度及びその前年度	25	0.0	0.0	8.0	60.0	32.0
昭和52年度及びその前年度	16	0.0	0.0	12.5	18.8	68.8
昭和44年度	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
昭和34年度及びその前年度	7	0.0	0.0	57.1	14.3	28.6
昭和29年度及びその前年度	4	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0
昭和24年度及びその前年度	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(9) 集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法について

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法については、いずれの時期においても「都道府県の記録文書の検索」が最も多く、「昭和24年度及びその前年度」(39.1%)、「昭和29年度及びその前年度」(43.5%)、「昭和34年度及びその前年度」(41.3%)、「昭和44年度」(41.3%)、「昭和52年度及びその前年度」(63.0%)、「昭和63年度及びその前年度」(73.9%)であった。

図 2-9 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容の確認方法



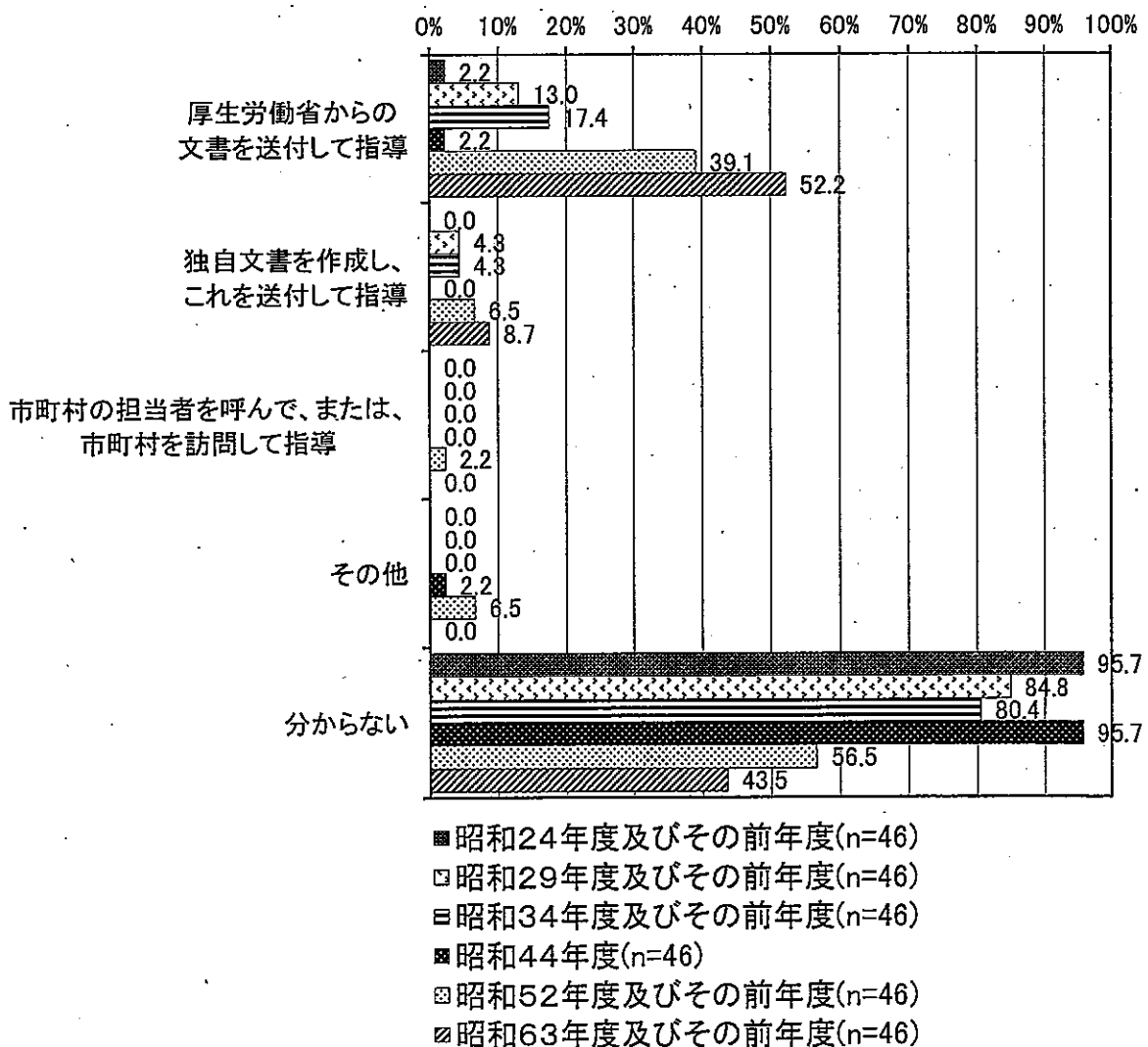
2.2 集団予防接種等の手技に関する指導方法

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導方法については、「分からない」を除くと「厚生労働省からの文書を送付して指導」が最も多く、「昭和 24 年度及びその前年度」(2.2%)、「昭和 29 年度及びその前年度」(13.0%)、「昭和 34 年度及びその前年度」(17.4%)、「昭和 44 年度」(2.2%)、「昭和 52 年度及びその前年度」(39.1%)、「昭和 63 年度及びその前年度」(52.2%) であった。

「独自文書を作成し、これを送付して指導」は、「昭和 29 年度及び前年度」「昭和 34 年度及び前年度」(4.3%)、「昭和 52 年度及びその前年度」(6.5%)、「昭和 63 年度及びその前年度」(8.7%) であった。

指導方法で「その他」と回答したものについては、昭和 44 年度は、「講習会の概要に県医師会の方針の記述あり」(1 件)との回答があり、昭和 52 年度及びその前年度は、「担当者会議」(2 件)、「県立学校のインフルエンザ予防接種について、実施要領及び留意事項を定めて実施」(1 件)の回答が得られた。

図 2-10 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導方法

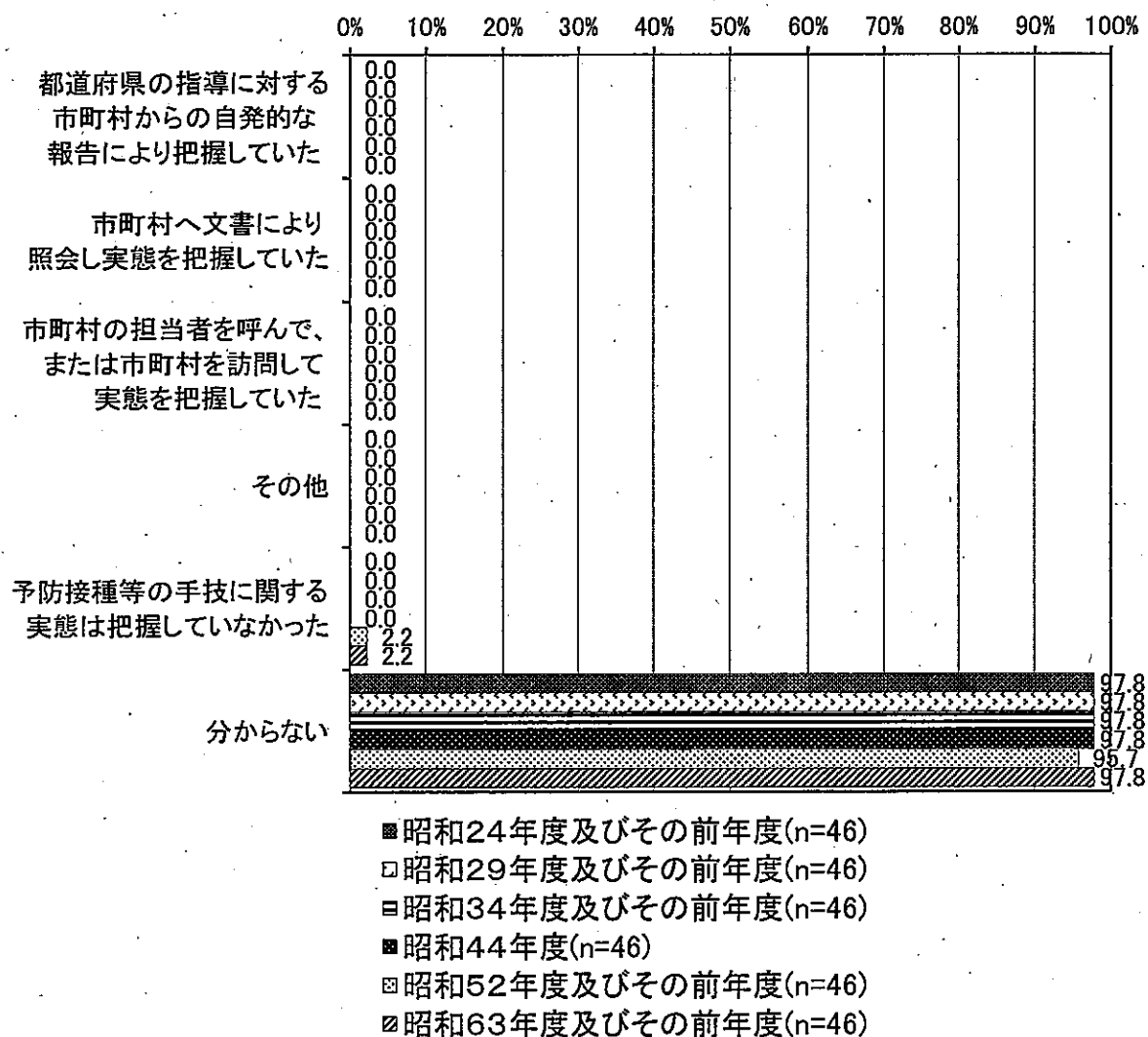


2.3 集団予防接種等の手技に関する実態把握

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態把握については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和52年度及びその前年度、昭和63年度及びその前年度においては、「予防接種等の手技に関する実態は把握していなかった」がそれぞれ1件（2.2%）見られた。

図 2-11 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態把握

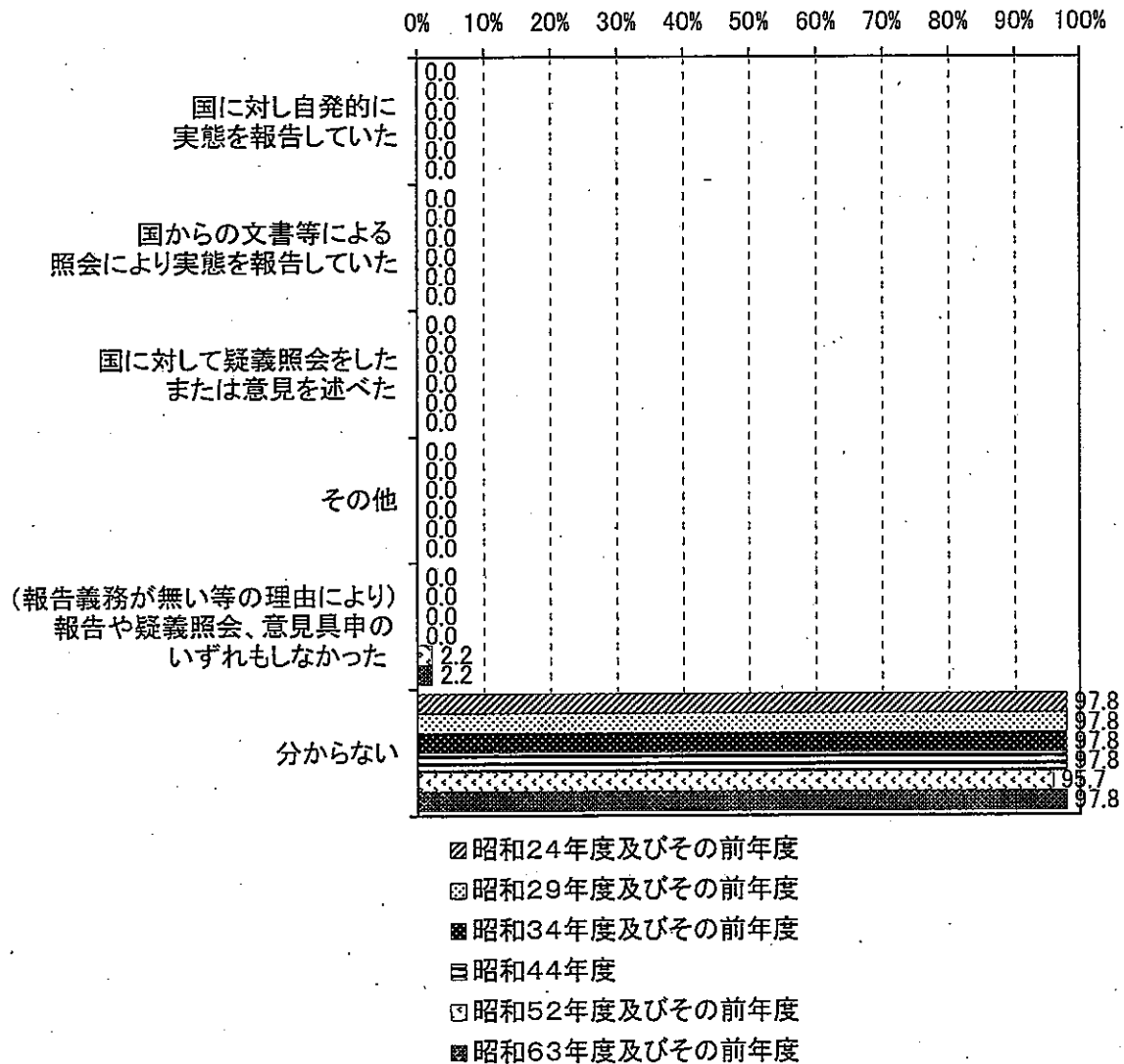


2.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告等

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告等については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和 52 年度及びその前年度、昭和 63 年度及びその前年度においては、「(報告義務が無い等の理由により) 報告や疑義照会、意見具申のいずれもしなかった」がそれぞれ 1 件 (2.2%) 見られた。

図 2-12 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告等

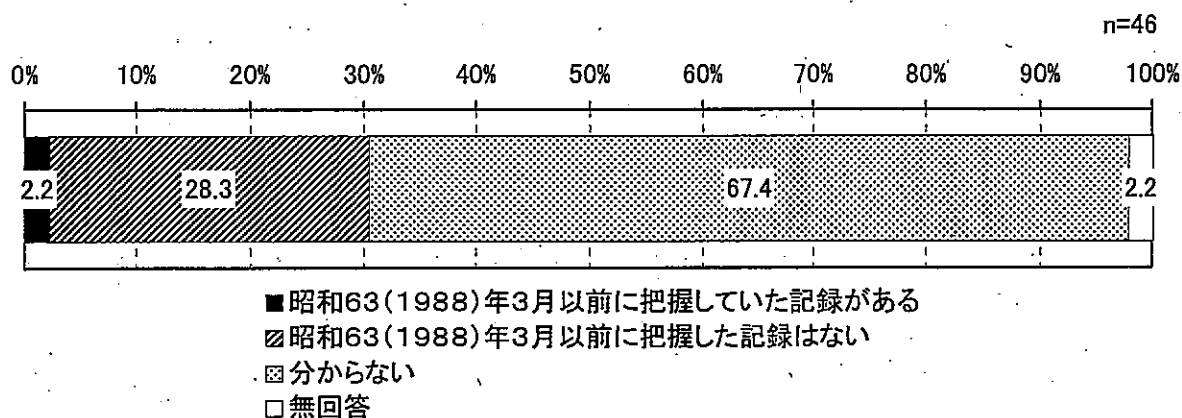


2.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例

(1) 昭和 63 年 3 月以前の把握

昭和 63 年 3 月以前の把握については、「把握していた記録がある」は 1 件 (2.2%) であった。それ以外は、「分からない」が 67.4% と最も多く、「把握した記録はない」は 28.3% であった。具体的な把握事例は、「記録等なし」が 1 件 (2.2%) であった。

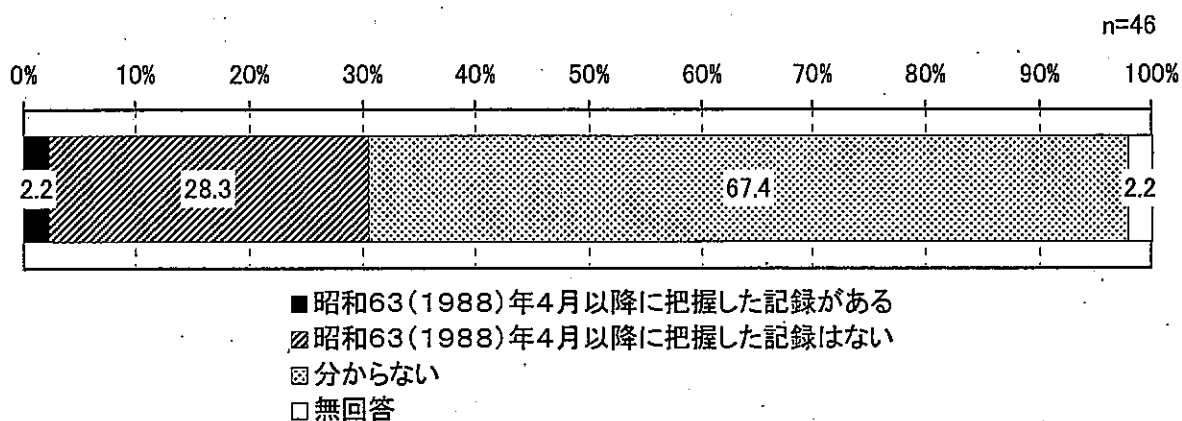
図 2-13 昭和 63 年 3 月以前の B 型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



(2) 昭和 63 年 4 月以降の把握

昭和 63 年 4 月以降の把握については、「把握した記録がある」は 1 件 (2.2%) であった。それ以外は、「分からない」が 67.4% と最も多く、「把握した記録はない」は 28.3% であった。具体的な把握事例は、「記録等なし」が 1 件 (2.2%) であった。

図 2-14 昭和 63 年 3 月以降の B 型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



2.6 結果のまとめ

- ・ 予防接種に関連する文書の保存年限は概ね 5 年と定める自治体が多く、古い時代の記録文書は既に残っていないとの回答が多く見られた。特に昭和 44 年以前は 8~9 割の都道府県が「記録がなく分からない」と回答した。
- ・ 記録が残っている自治体が多い昭和 52 年以降について、無回答及び「記録がなくわからない」と回答した自治体を除いた集計を見ると、集団予防接種等の手技に関する注射針・筒の指導内容について、昭和 52 年以降ディスポーザブル製品を使用するよう指導した割合が増え、昭和 63 年には 6 割程度まで増加していることから、この間に次第にディスポーザブル製品が普及していったものと考えられる。
- ・ 昭和 24 年度~63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射針）について（無回答及び「記録がなくわからないを除く」）、小さい番号及び大きい番号とも、昭和 52 年度及びその前年度からディスポーザブル製品の使用の指導が増えたことが明らかとなった。（集計の優先順位を考慮した「小さい番号を優先した集計」、「大きい番号を優先した集計」とも差異は見られなかった。）
- ・ 昭和 24 年度~63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容（注射筒）について（無回答及び「記録がなくわからないを除く」）、小さい番号及び大きい番号とも、昭和 63 年度及びその前年度からディスポーザブル製品の使用の指導が増えたことが明らかとなった。（集計の優先順位を考慮した「小さい番号を優先した集計」、「大きい番号を優先した集計」とも差異は見られなかった。）

3. 市町村調査

3.1 実施形態

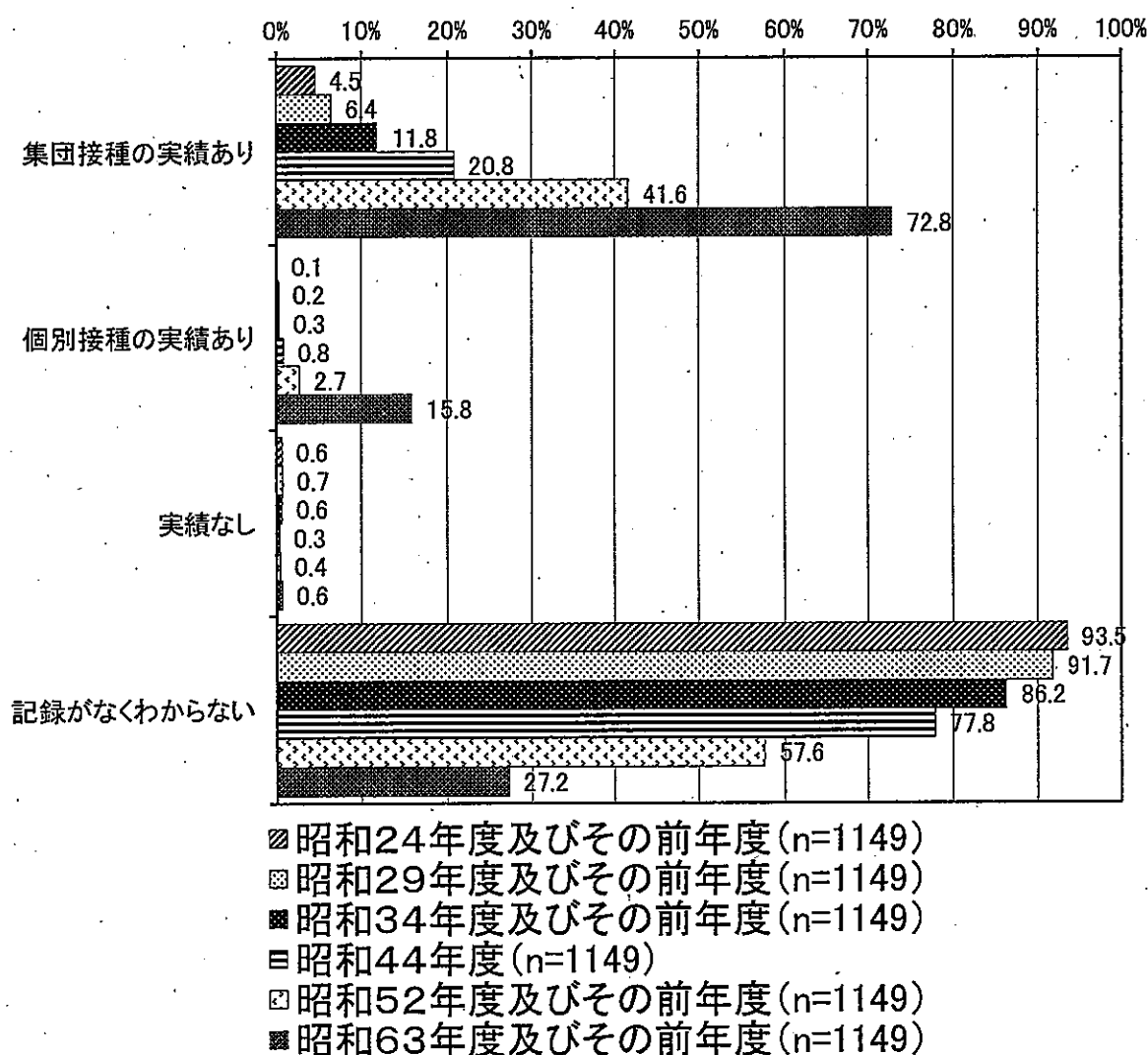
市町村における予防接種の実施形態について、「集団接種の実績あり」は、昭和24年度及びその前年度で4.6%、昭和29年度及びその前年度で6.4%、昭和34年度及びその前年度で11.8%、昭和44年度で20.8%、昭和52年度及びその前年度で41.6%、昭和63年度及びその前年度で72.8%であった。なお、記録の保存状況によって、割合に影響がある。

また、「個別接種の実績あり」は昭和63年度及びその前年度で15.8%であった。

昭和24年度～52年度までは「記録がなくわからない」が最も多かった。

「実績なし」と回答したものについては、全年度1%以下であった³。

図 3-1 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の実施形態



³ 電話による疑義照会の結果からは、一部の予防接種を実施していないために「実績なし」と回答したことが把握された。

3.2 集団予防接種等の手技

(1) 注射針について（小さい番号の選択肢を優先した集計）

集団予防接種等の手技（1.ディスポーザブル、2.加熱消毒、3.アルコール綿）について調査票では疾患ごとに状況が異なることも想定して複数回答とした。分析に際してはディスポーザブル＞加熱消毒＞アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「小さい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）と、ディスポーザブル＜加熱消毒＜アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「大きい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）を行った。

本項ではまず「小さい番号の選択肢を優先した集計」について述べる。

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射針）について尋ねたところ、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（92.3%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（3.8%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（94.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（2.7%）であった。

昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（91.2%）が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（3.7%）であった。

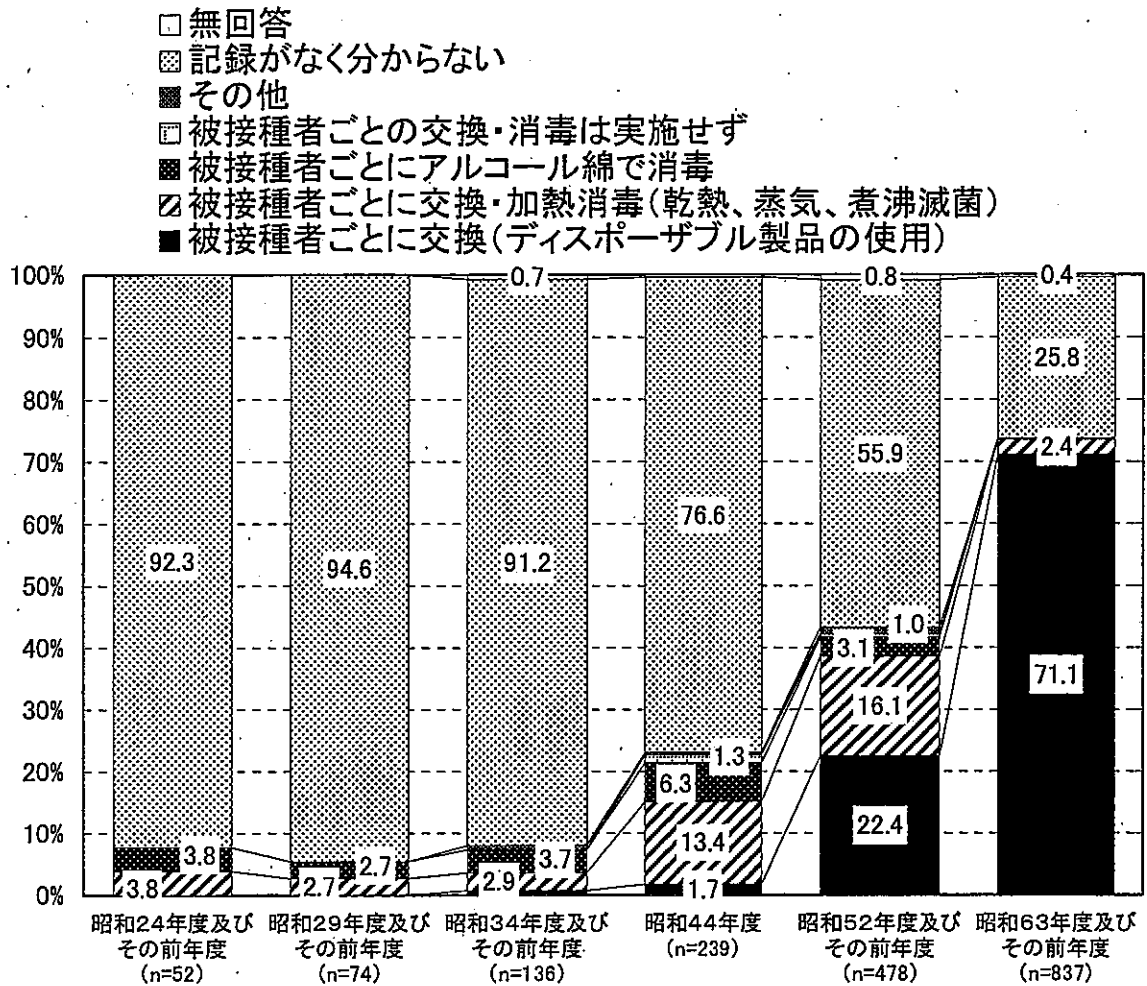
昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（76.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（13.4%）、「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（6.3%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（55.9%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（22.4%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（16.1%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（71.1%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（25.8%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（2.4%）であった。

その他については、昭和 44 年度では、「S45. 9月より1人一針一筒との記載があるため、被接種者ごとの交換はされていなかった可能性あり」（1件）、昭和 52 年度及びその前年度では、「アルコールランプで焼く」（1件）、「ハイジエッターを使用」（1件）等の回答が得られた。

図 3-2 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射針]
※小さい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換・消毒(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	837	595	20	1	1	1	216	3
		71.1	2.4	0.1	0.1	0.1	25.8	0.4
昭和52年度及びその前年度	478	107	77	15	3	5	267	4
		22.4	16.1	3.1	0.6	1.0	55.9	0.8
昭和44年度	239	4	32	15	3	1	183	1
		1.7	13.4	6.3	1.3	0.4	76.6	0.4
昭和34年度及びその前年度	136	1	4	5	0	1	124	1
		0.7	2.9	3.7	0.0	0.7	91.2	0.7
昭和29年度及びその前年度	74	0	2	2	0	0	70	0
		0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	94.6	0.0
昭和24年度及びその前年度	52	0	2	2	0	0	48	0
		0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	92.3	0.0

(2) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射針）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和44年以降で見ると、昭和44年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」であった。

昭和52年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」であった。

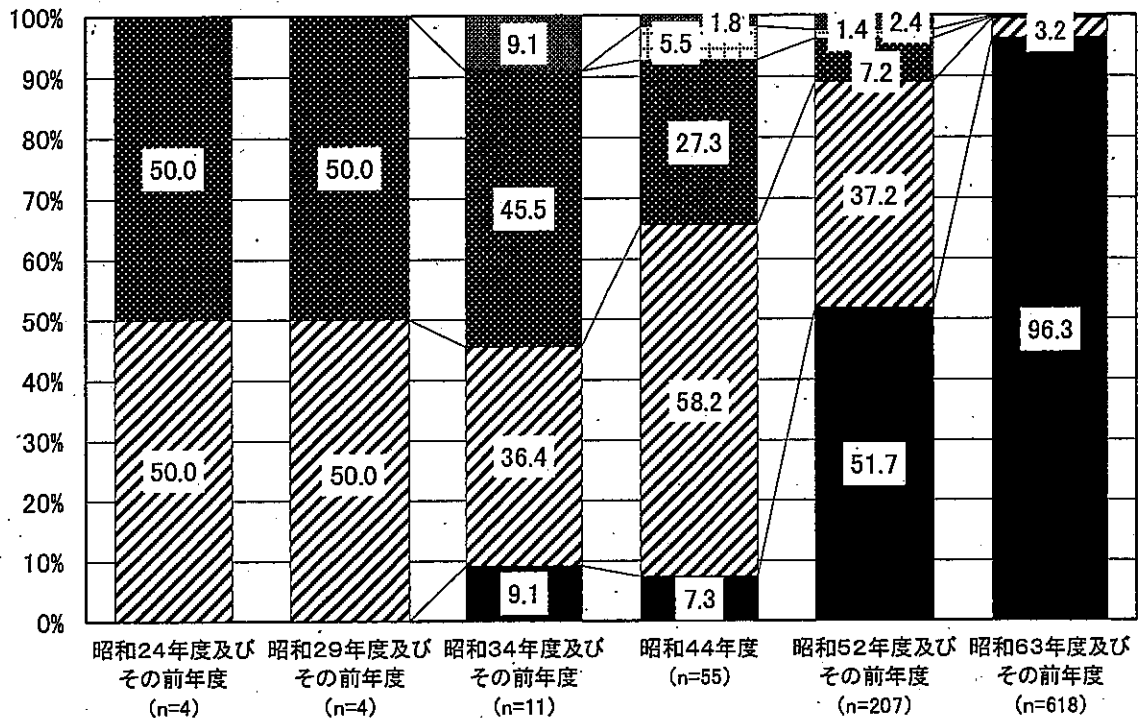
昭和63年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」であった。

図 3-3 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射針]

※無回答及び「記録がなくわからない」を除く

※小さい番号優先

- その他
- ▨ 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず
- 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- ▨ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- 被接種者ごとに交換(ディスプレイザブル製品の使用)



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスプレイザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	618	595	20	1	1	1
		96.3	3.2	0.2	0.2	0.2
昭和52年度及びその前年度	207	107	77	15	3	5
		51.7	37.2	7.2	1.4	2.4
昭和44年度	55	4	32	15	3	1
		7.3	58.2	27.3	5.5	1.8
昭和34年度及びその前年度	11	1	4	5	0	1
		9.1	36.4	45.5	0.0	9.1
昭和29年度及びその前年度	4	0	2	2	0	0
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
昭和24年度及びその前年度	4	0	2	2	0	0
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

(3) 注射針について（大きい番号の選択肢を優先した集計）

本項では、ディスポーザブル＜加熱消毒＜アルコール綿の優先順で単数回答化した集計（以下、「大きい番号の選択肢を優先した集計」と言う。）について述べる。

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射針）について尋ねたところ、昭和 24 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（92.3%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（3.8%）であった。

昭和 29 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（94.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（2.7%）であった。

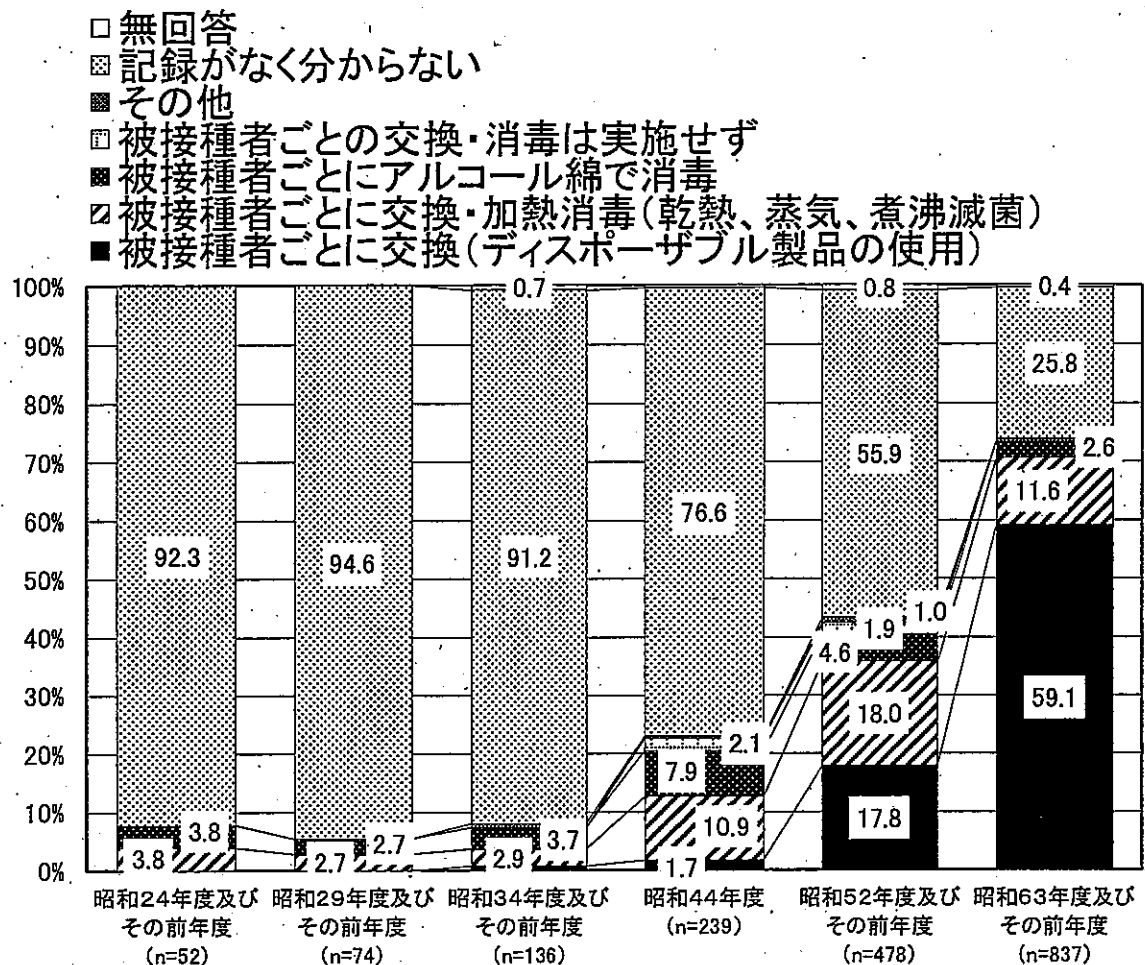
昭和 34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（91.2%）が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（3.7%）であった。

昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（76.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（10.9%）、「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」（7.9%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（55.9%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（18.0%）、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（17.8%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」（59.1%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（25.8%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（11.6%）であった。

図 3-4 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射針]
※大きい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	837	495	97	22	3	1	216	3
		59.1	11.6	2.6	0.4	0.1	25.8	0.4
昭和52年度及びその前年度	478	85	86	22	9	5	267	4
		17.8	18.0	4.6	1.9	1.0	55.9	0.8
昭和44年度	239	4	26	19	5	1	183	1
		1.7	10.9	7.9	2.1	0.4	76.6	0.4
昭和34年度及びその前年度	136	1	4	5	0	1	124	1
		0.7	2.9	3.7	0.0	0.7	91.2	0.7
昭和29年度及びその前年度	74	0	2	2	0	0	70	0
		0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	94.6	0.0
昭和24年度及びその前年度	52	0	2	2	0	0	48	0
		0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	92.3	0.0

(4) 注射針について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射針）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和 44 年以降で見ると、昭和 44 年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」であった。

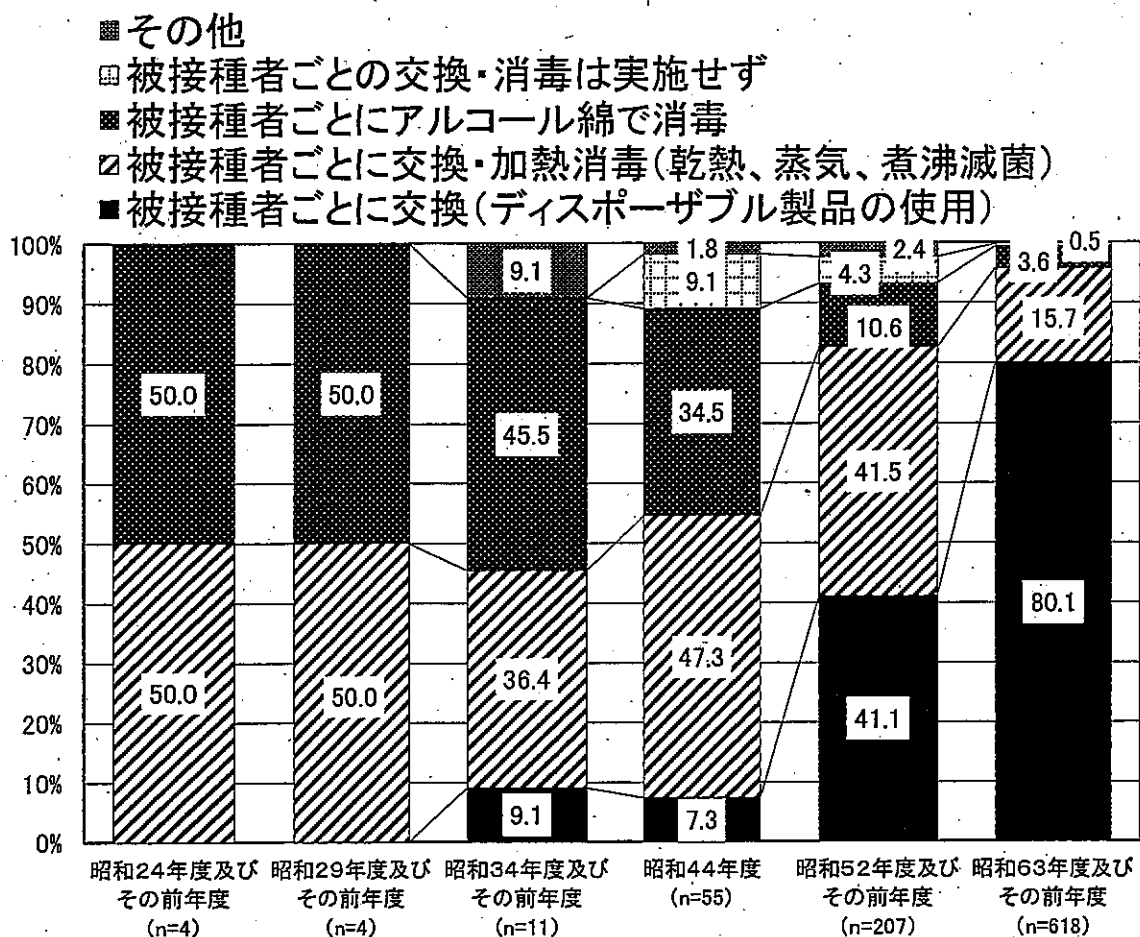
昭和 52 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」であった。

昭和 63 年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」であった。

図 3-5 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する指導内容 [注射針]

※無回答及び「記録がなくわからない」を除く

※大きい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	618	495	97	22	3	1
昭和52年度及びその前年度	207	85	86	22	9	5
昭和44年度	55	4	26	19	5	1
昭和34年度及びその前年度	11	1	4	5	0	1
昭和29年度及びその前年度	4	0	2	2	0	0
昭和24年度及びその前年度	4	0	2	2	0	0
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

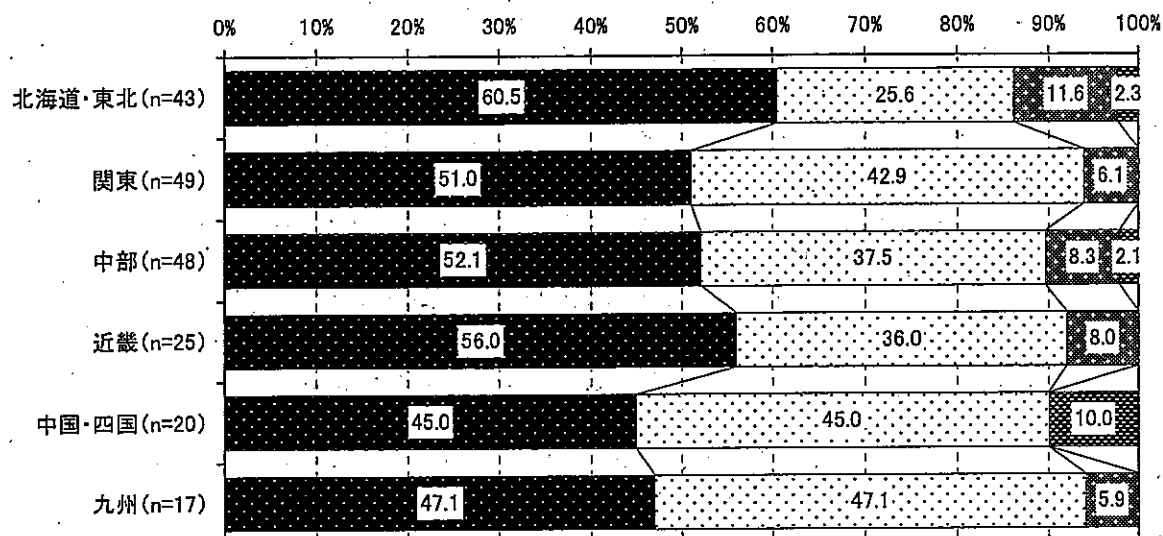
(5) 地域別の分析

一定のサンプル数が確保できた昭和52年度以降について、地域別に集団予防接種等の実施実態を分析したところ、昭和52年度、昭和63年度とも明確な地域差は見られなかった。

(なお、昭和44年度以前については回答数が極端に少なくなるため、集計していない。)

図 3-6 昭和52年度及びその前年度の集団予防接種等の地域別実施実態(注射針)

※小さい番号優先

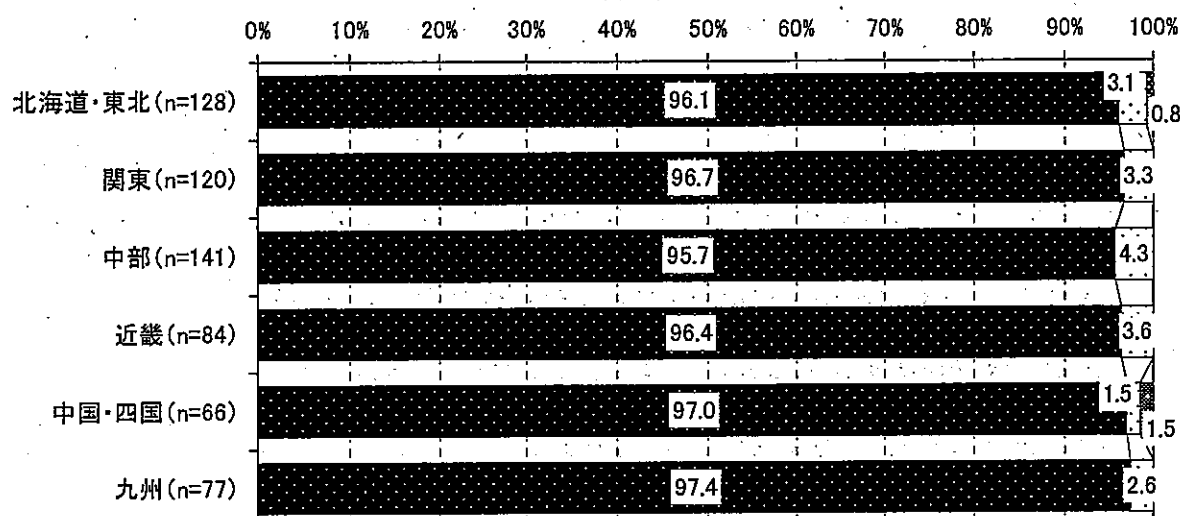


- 被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)
- 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- ▨ 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- ⊠ 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず

	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず
合 計	203	107 52.7	77 37.9	15 7.4	4 2.0
【地域別】					
北海道・東北	43	26 60.5	11 25.6	5 11.6	1 2.3
関東	49	25 51.0	21 42.9	3 6.1	0 0.0
中部	48	25 52.1	18 37.5	4 8.3	1 2.1
近畿	25	14 56.0	9 36.0	2 8.0	0 0.0
中国・四国	20	9 45.0	9 45.0	0 0.0	2 10.0
九州	17	8 47.1	8 47.1	1 5.9	0 0.0

図 3-7 昭和63年度及びその前年度の集団予防接種等の地域別実施実態(注射針)

※小さい番号優先



- 被接種者ごとに交換(ディスプレイ製品の使用)
- 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず

	サ ン プ ル 数	ス被 ポ接 ー種 ザ者 ブルごとに 製品の交換 の使用(デ ィ	菌被 毒種 (者 乾熱、蒸 気、煮沸 滅熱	綿被 で接 消毒種 者ごとに にアル コ ー ル	は被 実接 施種 者ご との 交換・ 消毒
合 計	617	595 96.4	20 3.2	1 0.2	1 0.2
【地域別】					
北海道・東北	128	123 96.1	4 3.1	0 0.0	1 0.8
関東	120	116 96.7	4 3.3	0 0.0	0 0.0
中部	141	135 95.7	6 4.3	0 0.0	0 0.0
近畿	84	81 96.4	3 3.6	0 0.0	0 0.0
中国・四国	66	64 97.0	1 1.5	1 1.5	0 0.0
九州	77	75 97.4	2 2.6	0 0.0	0 0.0

(6) 注射筒について（小さい番号の選択肢を優先した集計）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射筒）について尋ねたところ、昭和 24、29、34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」が最も多かった（約 90%）。

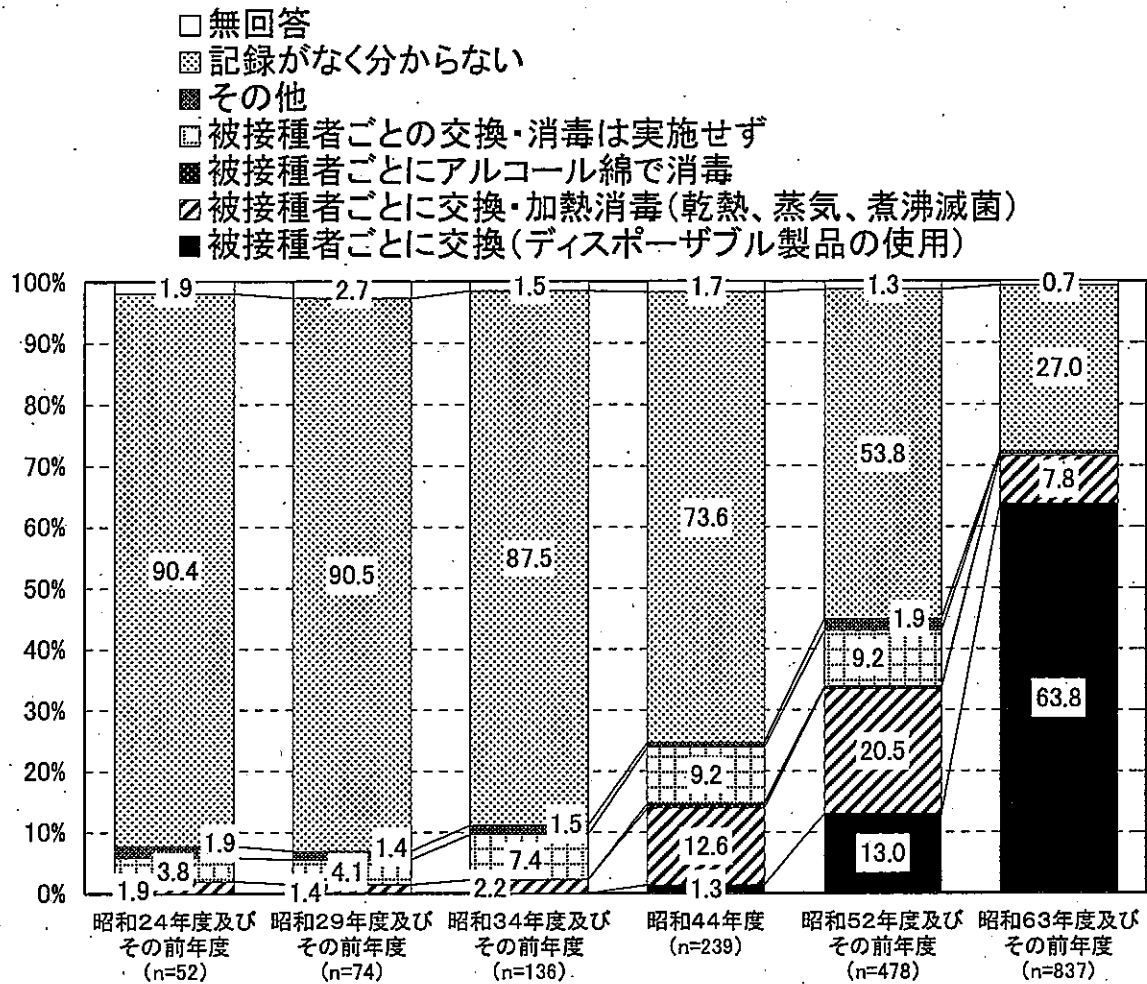
昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（73.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（12.6%）、「被接種者ごとの交換・消毒はせず」（9.2%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（53.8%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（20.5%）、「被接種者ごとに交換（ディスプレイ製品の使用）」（13.0%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスプレイ製品の使用）」（63.8%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（27.0%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（7.8%）であった。

その他については、昭和 44 年度では、「S45. 9 月より 1 人一針一筒との記載があるため、被接種者ごとの交換はされていなかった可能性あり」（1 件）、昭和 52 年度及びその前年度では、「ハイジェッター使用し、複数に実施」（2 件）、「足踏式噴射注射機」（1 件）等、昭和 63 年及びその前年度では「BCG は煮沸滅菌」（2 件）、「自動噴射注射機」（1 件）等の回答が得られた。

図 3-8 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射筒]
※小さい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	837	534	65	0	3	3	226	6
昭和52年度及びその前年度	478	63.8	7.8	0.0	0.4	0.4	27.0	0.7
昭和44年度	239	13.0	20.5	0.4	9.2	1.9	53.8	1.3
昭和34年度及びその前年度	136	2.2	7.4	0.8	9.2	0.8	73.6	1.7
昭和29年度及びその前年度	74	1.4	4.1	1.4	90.5	1.4	2.7	1.4
昭和24年度及びその前年度	52	1.9	3.8	1.9	90.4	1.9	2.7	1.9

(7) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射筒）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和44年以降で見ると、昭和44年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとの交換・消毒はせず」であった。

昭和52年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」、「被接種者ごとの交換・消毒はせず」であった。

昭和63年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」であった。

図 3-9 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射筒]

※無回答及び「記録がなくわからない」を除く

※小さい番号優先

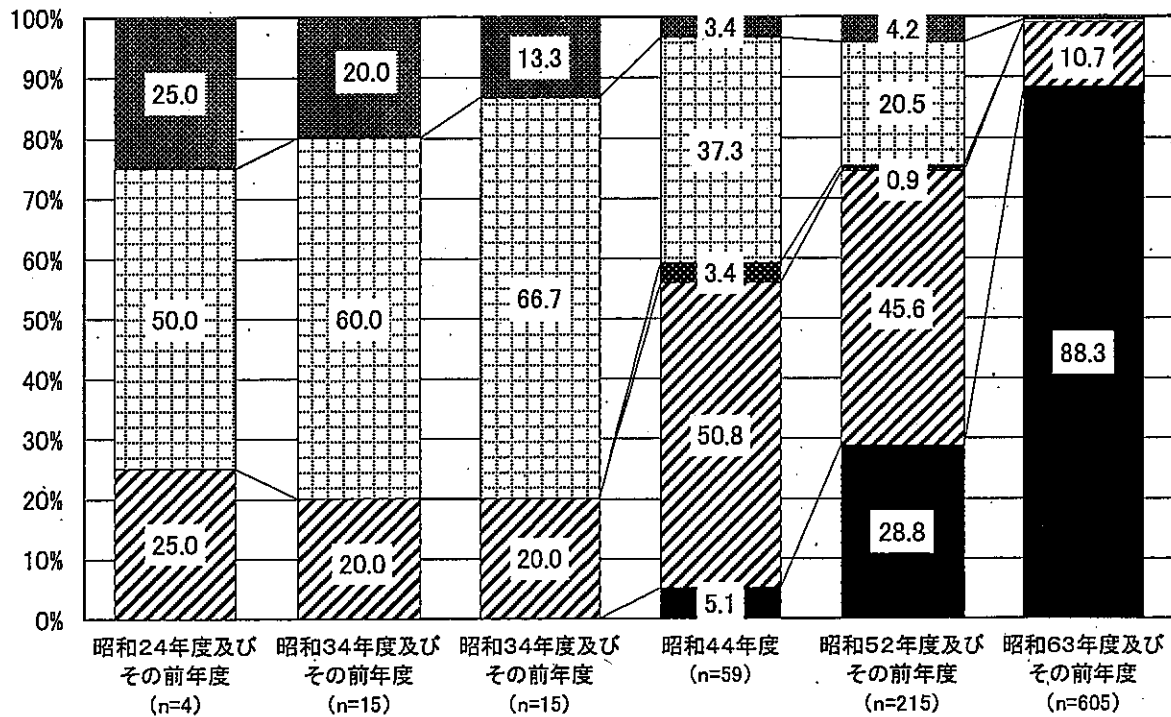
■ その他

▣ 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず

■ 被接種者ごとにアルコール綿で消毒

▢ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)

■ 被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)



	サンプル数	被接種者ごとに交換・消毒(デスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	605	534	65	0	3	3
		88.3	10.7	0.0	0.5	0.5
昭和52年度及びその前年度	215	62	98	2	44	9
		28.8	45.6	0.9	20.5	4.2
昭和44年度	59	3	30	2	22	2
		5.1	50.8	3.4	37.3	3.4
昭和34年度及びその前年度	15	0	3	0	10	2
		0.0	20.0	0.0	66.7	13.3
昭和29年度及びその前年度	5	0	1	0	3	1
		0.0	20.0	0.0	60.0	20.0
昭和24年度及びその前年度	4	0	1	0	2	1
		0.0	25.0	0.0	50.0	25.0

(8) 注射筒について（大きい番号の選択肢を優先した集計）

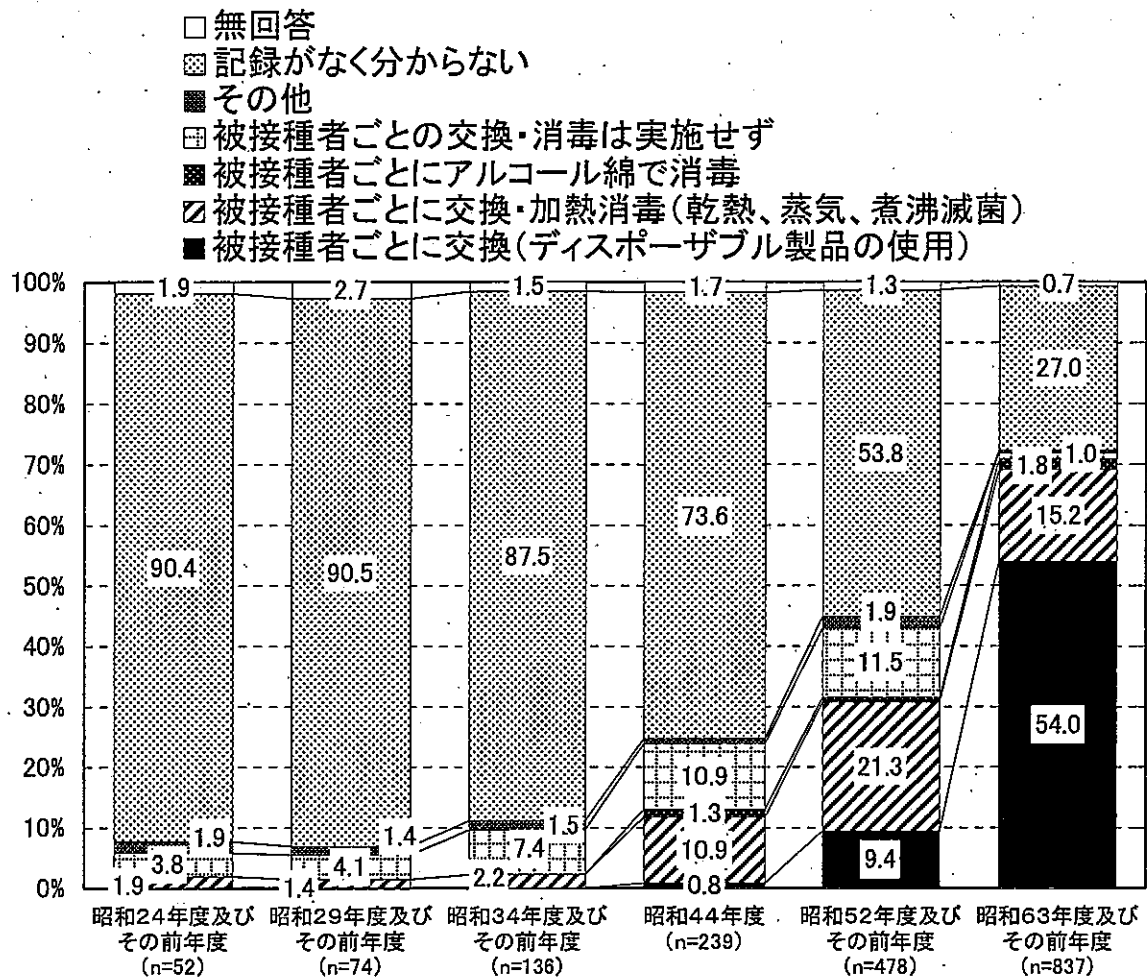
市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射筒）について尋ねたところ、昭和 24、29、34 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」が最も多かった（約 90%）。

昭和 44 年度は、「記録がなくわからない」（73.6%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」「被接種者ごとの交換・消毒はせず」（10.9%）であった。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなくわからない」（53.8%）が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（21.3%）、「被接種者ごとの交換・消毒はせず」（11.5%）であった。

昭和 63 年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ Disposable 製品の使用）」（54.0%）が最も多く、次いで「記録がなくわからない」（27.0%）、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」（15.2%）であった。

図 3-10 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射筒]
※大きい番号優先



	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他	記録がなく分からない	無回答
昭和63年度及びその前年度	837	452	127	15	8	3	226	6
昭和52年度及びその前年度	478	54.0	15.2	1.8	1.0	0.4	27.0	0.7
昭和44年度	239	45	102	4	55	9	257	6
昭和34年度及びその前年度	136	9.4	21.3	0.8	11.5	1.9	53.8	1.3
昭和29年度及びその前年度	74	2	26	3	26	2	176	4
昭和24年度及びその前年度	52	0.8	10.9	1.3	10.9	0.8	73.6	1.7
		0	3	0	10	2	119	2
		0.0	2.2	0.0	7.4	1.5	87.5	1.5
		0	1	0	3	1	67	2
		0.0	1.4	0.0	4.1	1.4	90.5	2.7
		0	1	0	2	1	47	1
		0.0	1.9	0.0	3.8	1.9	90.4	1.9

(9) 注射筒について（無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計）

市町村における予防接種の実施形態で「集団接種の実績あり」と回答した市町村における集団予防接種等の手技（注射筒）について、無回答及び「記録がなくわからない」を除外した集計を行った。

一定のサンプル数が確保できた昭和44年以降で見ると、昭和44年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」と「被接種者ごとの交換・消毒はせず」が最も多かった。

昭和52年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」が最も多く、次いで「被接種者ごとの交換・消毒はせず」、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」であった。

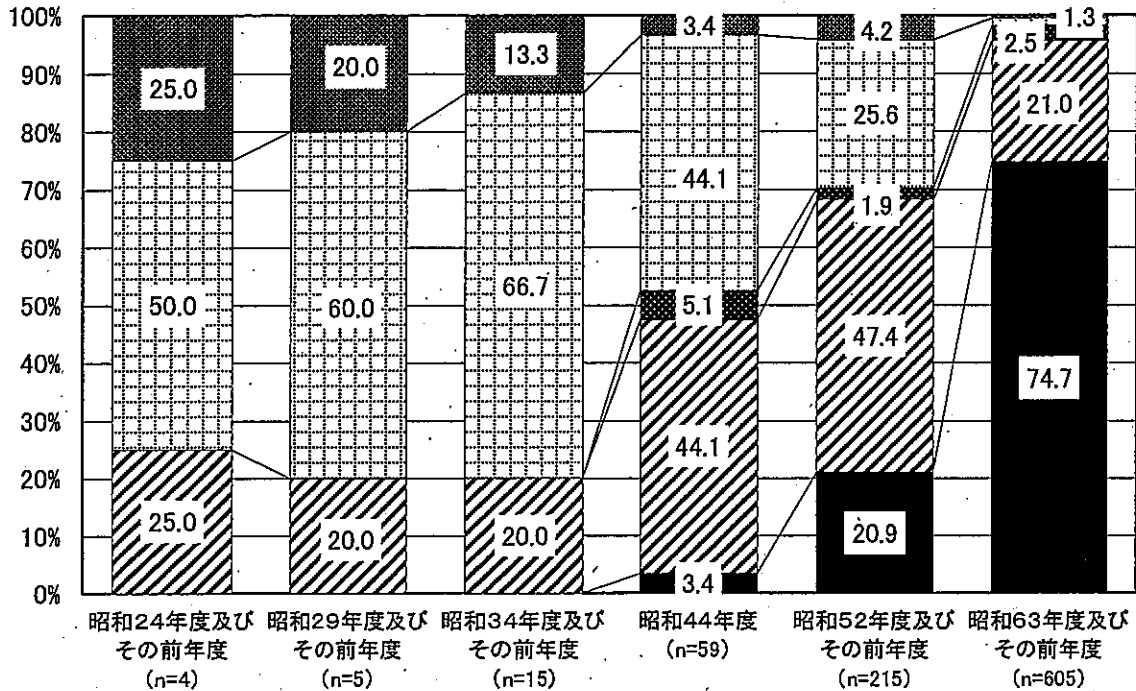
昭和63年度及びその前年度は、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が最も多く、次いで「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）」であった。

図 3-11 昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種の実績 [注射筒]

※無回答及び「記録がなくわからない」を除く

※大きい番号優先

- その他
- ▨ 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず
- 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- ▨ 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- 被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)

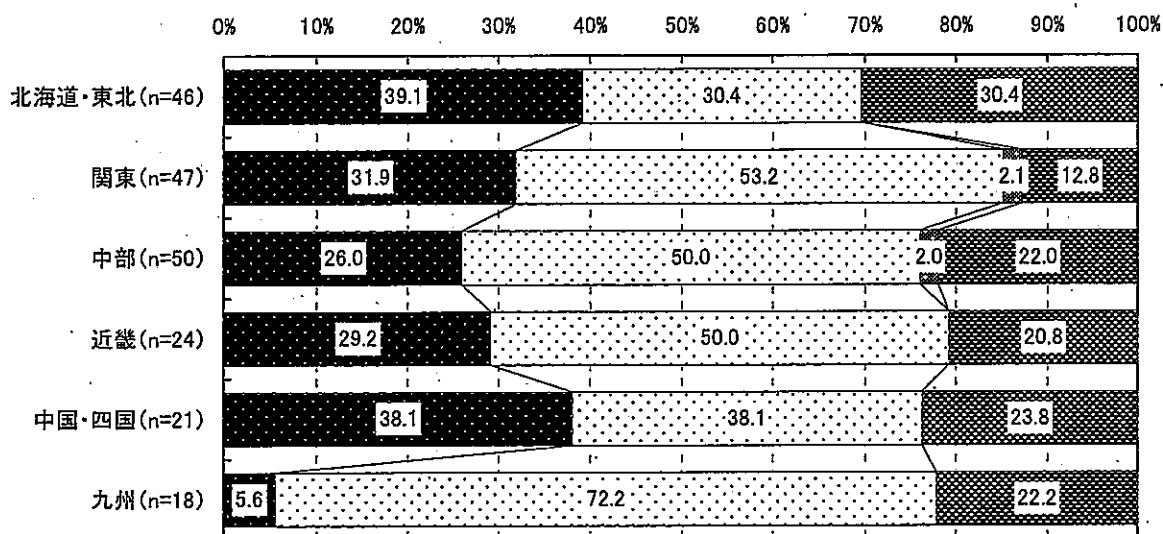


	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず	その他
昭和63年度及びその前年度	605	452	127	15	8	3
		74.7	21.0	2.5	1.3	0.5
昭和52年度及びその前年度	215	45	102	4	55	9
		20.9	47.4	1.9	25.6	4.2
昭和44年度	59	2	26	3	26	2
		3.4	44.1	5.1	44.1	3.4
昭和34年度及びその前年度	15	0	3	0	10	2
		0.0	20.0	0.0	66.7	13.3
昭和29年度及びその前年度	5	0	1	0	3	1
		0.0	20.0	0.0	60.0	20.0
昭和24年度及びその前年度	4	0	1	0	2	1
		0.0	25.0	0.0	50.0	25.0

(10) 地域別の分析

一定のサンプルが確保できた昭和 52 年度以降について地域別に集団予防接種等の実施実態を分析したところ、昭和 63 年度においては地域差はみられないが、昭和 52 年度においては九州地域ではディスポーザブル製品の使用が少なく、加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）が相対的に高い割合を示している。

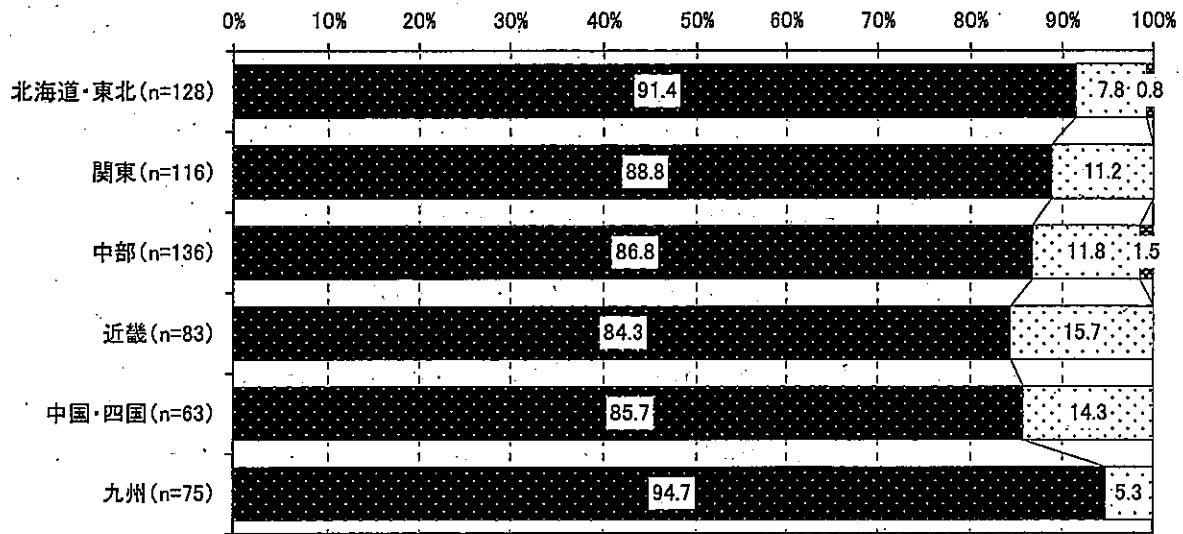
図 3-12 昭和52年度及びその前年度の集団予防接種等の地域別実施実態(注射筒)



- 被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)
- 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- ▨ 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず

	サンプル数	被接種者ごとに交換(ディスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず
合 計	207	62 30.0	98 47.3	2 1.0	45 21.7
【地域別】					
北海道・東北	46	18 39.1	14 30.4	0 0.0	14 30.4
関東	47	15 31.9	25 53.2	1 2.1	6 12.8
中部	50	13 26.0	25 50.0	1 2.0	11 22.0
近畿	24	7 29.2	12 50.0	0 0.0	5 20.8
中国・四国	21	8 38.1	8 38.1	0 0.0	5 23.8
九州	18	1 5.6	13 72.2	0 0.0	4 22.2

図 3-13 昭和63年度及びその前年度の集団予防接種等の地域別実施実態(注射筒)



- 被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)
- 被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)
- ▨ 被接種者ごとにアルコール綿で消毒
- ⬜ 被接種者ごとの交換・消毒は実施せず

	サンプル数	被接種者ごとに交換(デスポーザブル製品の使用)	被接種者ごとに交換・加熱消毒(乾熱、蒸気、煮沸滅菌)	被接種者ごとにアルコール綿で消毒	被接種者ごとの交換・消毒は実施せず
合 計	602	534 88.7	65 10.8	0 0.0	3 0.5
【地域別】					
北海道・東北	128	117 91.4	10 7.8	0 0.0	1 0.8
関東	116	103 88.8	13 11.2	0 0.0	0 0.0
中部	136	118 86.8	16 11.8	0 0.0	2 1.5
近畿	83	70 84.3	13 15.7	0 0.0	0 0.0
中国・四国	63	54 85.7	9 14.3	0 0.0	0 0.0
九州	75	71 94.7	4 5.3	0 0.0	0 0.0

(11) 集団予防接種等の手技の確認方法

昭和 24 年度～63 年度及びその前年度の集団予防接種等の手技の確認方法については、「市町村担当者への聞き取り」が最も多く、「昭和 24 年度及びその前年度」(24.5%)、「昭和 29 年度及びその前年度」(24.3%)、「昭和 34 年度及びその前年度」(25.0%)、「昭和 44 年度」(29.7%)、「昭和 52 年度及びその前年度」(47.3%)、「昭和 63 年度及びその前年度」(70.5%)であった。

「その他」との回答の具体的内容については、各時点ごとに、以下のとおり。

昭和 24 年度及びその前年度は「記録がなく不明」(28 件)、「担当者がいない」(2 件)などの回答が得られた。

昭和 29 年度及びその前年度は「記録がなく不明」(28 件)、「担当者がいない」(2 件)などの回答が得られた。

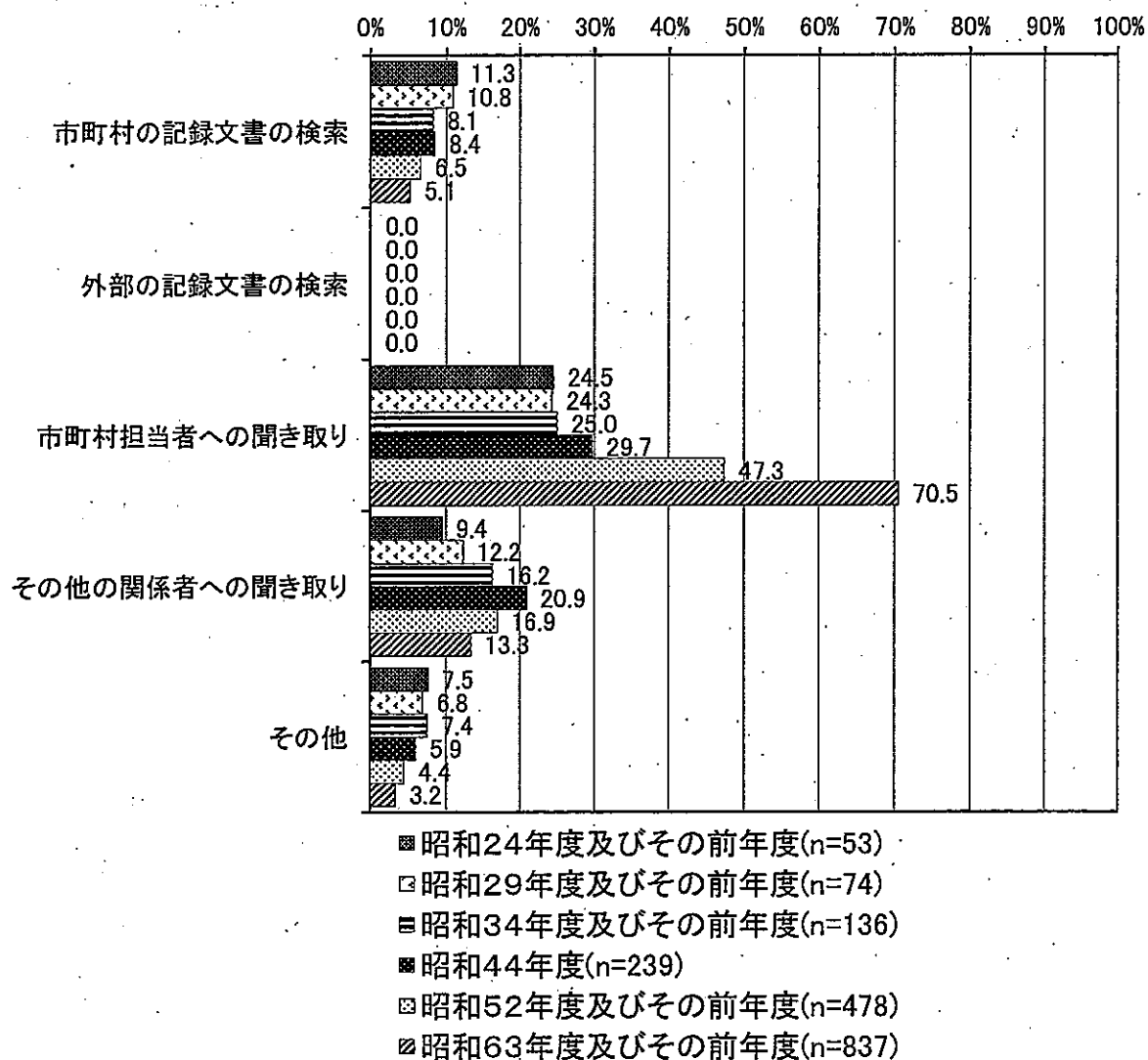
昭和 34 年度及びその前年度は「記録がなく不明」(22 件)、「担当者がいない」(7 件)などの回答が得られた。

昭和 44 年度は「記録がなく不明」(21 件)、「担当者がいない」(4 件)などの回答が得られた。

昭和 52 年度及びその前年度は、「記録がなく不明」(19 件)、などの回答が得られた。

昭和 63 年度及びその前年度は、「記録がなく不明」(11 件)、「当時、担当していた」(3 件)、「自分の子供が対象児の為、記憶にある」(1 件)などの回答が得られた。

図 3-14 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技の確認方法



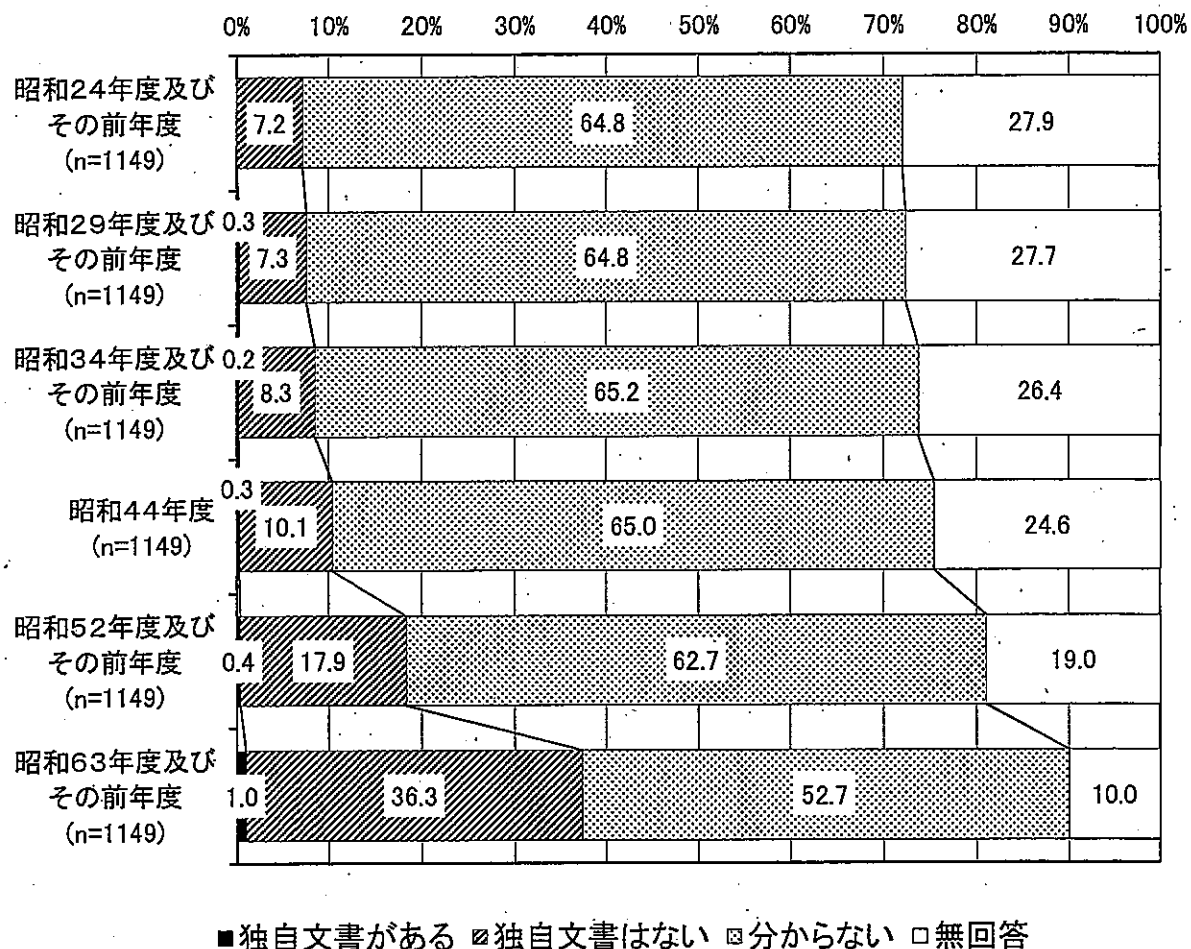
3.3 集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和52年度及びその前年度以降、「独自文書はない」の回答が増え、昭和63年度及びその前年度では、「独自文書はない」が36.3%であった。

一方、昭和63年度及びその前年度でも「独自文書がある」は1.0%であった。

図 3-15 昭和24年度及びその前年度の集団予防接種等の実施に関する独自文書の有無

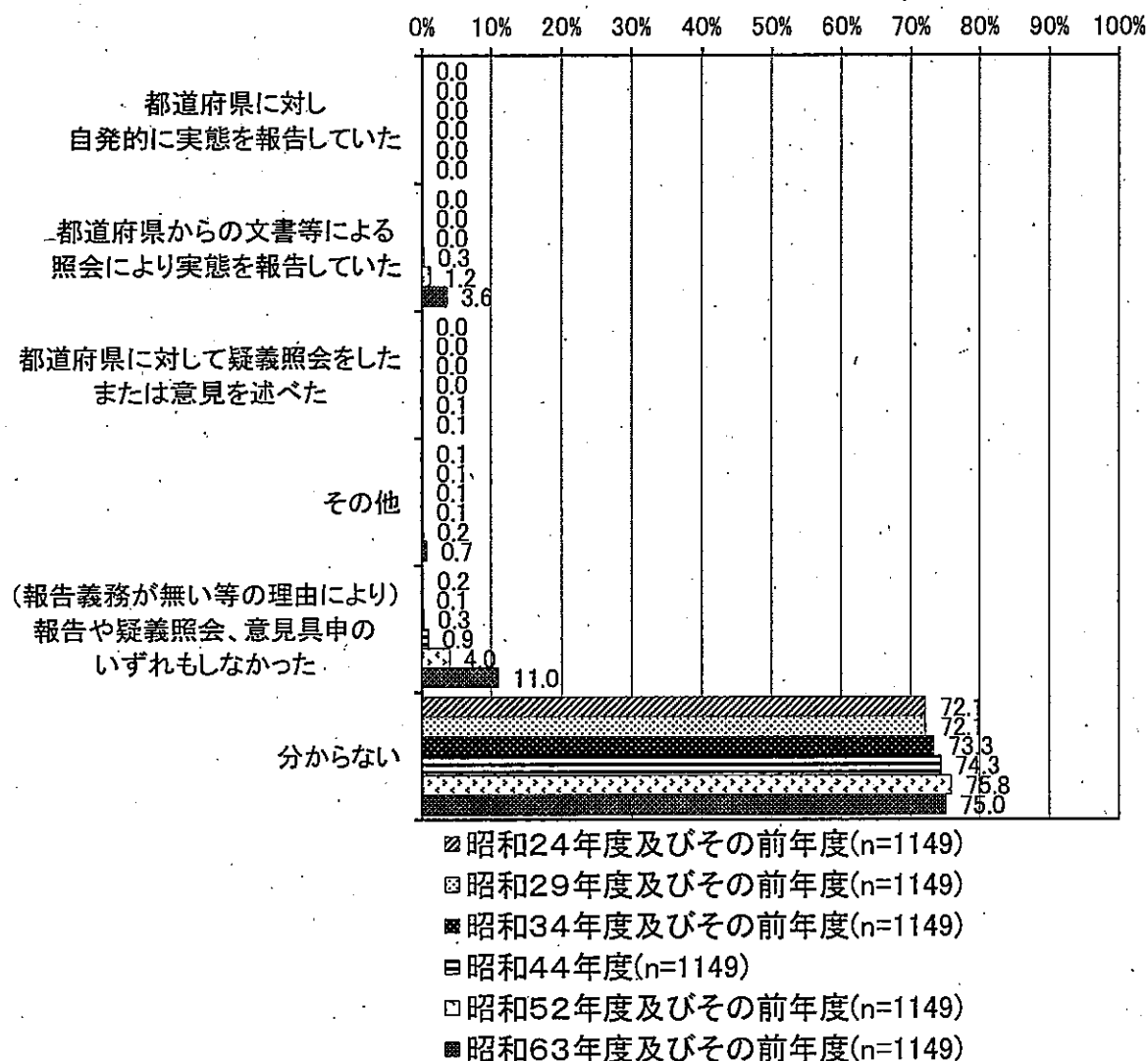


3.4 集団予防接種等の手技に関する実態の報告

昭和24年度～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告については、「分からない」の回答が最も多かった。

昭和63年度及びその前年度においては、「(報告義務が無い等の理由により)報告や疑義照会、意見具申のいずれもしなかった」が11.0%あった。

図 3-16 昭和24年～63年度及びその前年度の集団予防接種等の手技に関する実態の報告



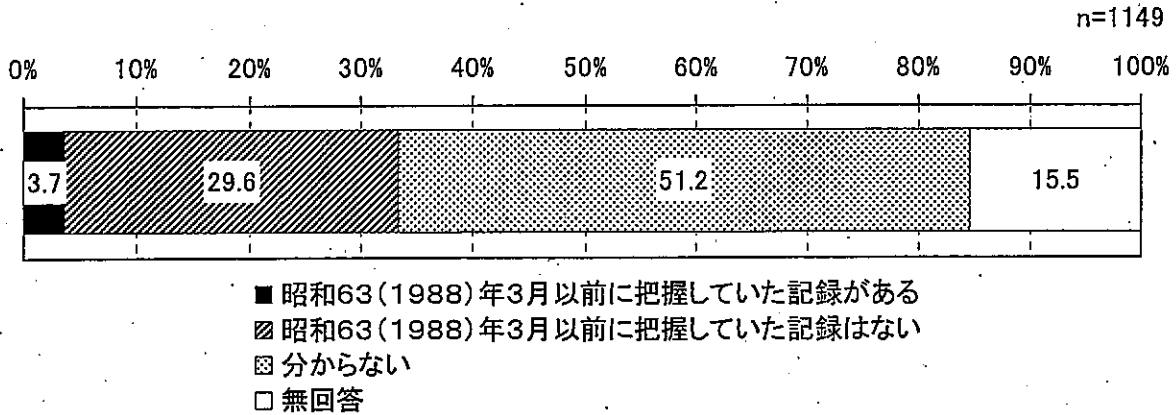
3.5 B型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例

(1) 昭和63年3月以前の把握

昭和63年3月以前の把握については、「分からない」(51.2%)が最も多く、次いで「把握していた記録はない」(29.6%)、「把握していた記録がある」(3.7%)であった。

「把握していた記録がある」場合の事例の概要と対応については、「S23年出生男性20歳頃、献血でB型肝炎発覚し、肝ガンで死亡」(1件)という事例があった。

図 3-17 昭和63年3月以前のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



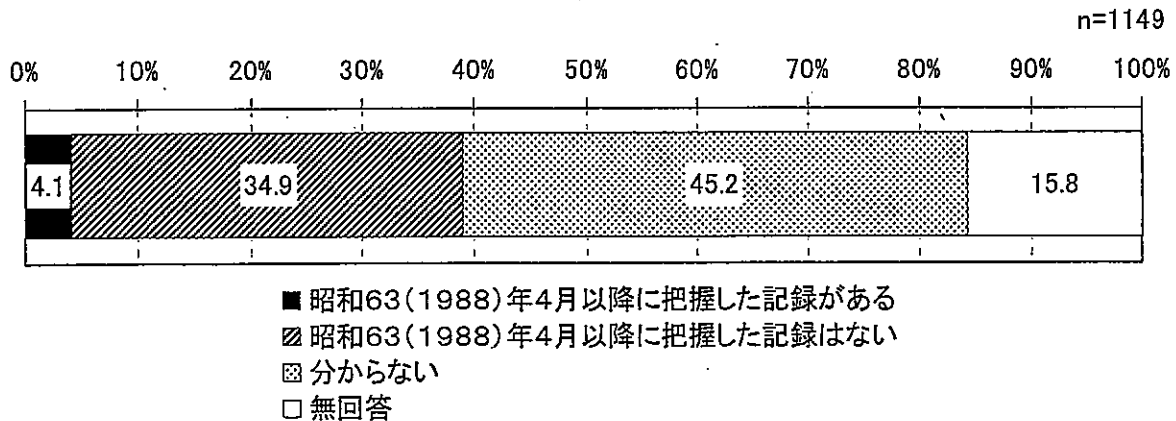
(2) 昭和63年3月以降の把握

昭和63年3月以降の把握については、「分からない」(45.2%)が最も多く、次いで「把握した記録はない」(34.9%)、「把握した記録がある」(4.1%)であった。

「把握していた記録がある」場合の事例の概要と対応については、次のような事例があった。

時期：平成元年。地域：札幌市及び市外。概要：札幌市等で昭和26年から昭和58年頃までの間に予防接種の集団接種を受けた5人(札幌市民4人、市外在住者1人)が注射器を連続使用して予防接種を行なった事により、B型肝炎に感染したとして国に損害賠償を求めた。

図 3-18 昭和63年3月以降のB型肝炎の感染可能性が疑われる具体的な事例の把握



3.6 結果のまとめ

- ・ 予防接種に関連する文書の保存年限は概ね5年と定める自治体が多く、古い時代の記録文書は既に残っていないとの回答が多く見られた。特に昭和34年以前は約9割の市町村が、昭和44年でも7~8割が「記録がなく分からない」と回答した。
- ・ 記録が残っている昭和44年以降について、無回答及び「記録がなくわからない」と回答した自治体を除いた集計を見ると、集団予防接種等の手技に関する注射針の実施形態について、昭和44年度では「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸消毒）」あるいは「被接種者ごとにアルコール綿で消毒」が多くおこなわれていた。
- ・ 昭和52年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸消毒）」と「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が同程度となっており、ディスポーザブル製品が市場に出始めて普及しつつあったのではないかと推察される。
- ・ さらに、昭和63年度及びその前年度では、ディスポーザブル製品を使用する市町村が大半を占めるようになった。
- ・ 記録が残っている自治体が多い昭和44年以降について、無回答及び「記録がなくわからない」と回答した自治体を除いた集計を見ると、集団予防接種等の手技に関する注射筒の実施形態について、昭和44年度では「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸消毒）」と「被接種者ごとの交換・消毒は実施せず」が一定程度あった。
- ・ 昭和52年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸消毒）」が多く行われており、ディスポーザブル製品の利用が増加し、一方で被接種者ごとの交換・消毒を実施していない市町村も一定程度見られた。
- ・ 昭和63年度及びその前年度では、「被接種者ごとに交換（ディスポーザブル製品の使用）」が多くなり、それ以外の市町村でも少なくとも筒の「加熱消毒」が行われるようになった。被接種者ごとの交換・消毒を実施していない市町村は減少した。
- ・ 地域別に集団予防接種等の手技（ディスポ/加熱/アルコール綿）について確認したところ、注射針については地域別に大きな差異は見られなかったが、注射筒については九州地方でディスポーザブルの使用の割合が相対的に低い傾向が見られた。